

中泉十王堂遺跡 5

建売分譲住宅工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2023

高崎市教育委員会
群馬グランディハウス株式会社
有限会社毛野考古学研究所

中泉十王堂遺跡 5

建売分譲住宅工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2023

高崎市教育委員会
群馬グランディハウス株式会社
有限会社毛野考古学研究所

例言

1. 本書は、建売分譲住宅工事に伴う中泉町十王堂遺跡5（遺跡調査番号866）の埋蔵文化財調査報告書である。
2. 本遺跡は、群馬県高崎市中泉町字十王堂90番地1に所在している。
3. 発掘調査および報告書の作成は、高崎市教育委員会・群馬グランディハウス株式会社・有限会社毛野考古学研究所による三者協定を締結し、委託を受けた有限会社毛野考古学研究所が実施した。
4. 発掘調査から報告書作成・刊行に至るまでの費用は、群馬グランディハウス株式会社が負担している。
5. 発掘調査・報告書作成は清水 豊（高崎市教育委員会文化財保護課）の指導・監督のもと、土井道昭（有限会社毛野考古学研究所）が担当した。遺構測量は田村貴広（同）が担当し、空中写真撮影は小出拓磨（同）・田村が担当した。本書の編集は山本千春（同）が行い、執筆はI章を清水、その他は土井・山本が担当した。遺物の写真撮影は井上 太（同）、縄文土器の実測・観察は高橋清文（同）、石器の実測・観察は土井、その他の遺物実測・観察は恋河内昭彦（同）が行った。
6. 発掘調査は令和5年3月1日から令和5年4月18日まで行った。整理作業は令和5年4月19日から令和5年11月30日まで行った。
7. 発掘調査で出土した遺物および図面等の資料は、一括して高崎市教育委員会で保管されている。
8. 発掘調査および整理作業に携わった方々は以下のとおりである。
発掘調査：天田真由美 市川嘉久 岡田正敏 北野進二 櫻井 豊 佐藤関雄 白砂福造 新聞昌代 松井 勝 松本幸男
整理作業：石川陽子 鬼形敦子 金澤明佳 関野一枝 合田幸子 國分 文 齋藤雄介 柴田弘信 瀬尾剛子 武士久美子 萩原 薫 半澤利江 深谷道子 真下弘美
9. 発掘調査および報告書の作成にあたり下記の諸氏に御指導・御協力を賜った。記して謝意を表します。（順不同・敬称略）
株式会社トーイコーポレーション 株式会社カネコハウス 三宅敦気

凡例

1. 全体図および遺構平面図に示した方位は座標北を表し、断面水準線数値は海拔標高を示す。座標については世界測地系に基づく平面直角座標第IX系を使用している。
2. 遺構図および遺物実測図の縮尺については、挿図中にスケールを示した。なお、遺物写真の縮尺については遺物実測図と概ね同じである。
3. 土層および遺物の色調表記は『新版 標準土色帖』（農林水産技術会議事務局 財団法人日本色彩研究所監修2006）を用いた。
4. 本文中や挿表中における計測値については〈 〉は残存値を、（ ）は復元値を表す。
5. 遺構図・遺物実測図中に使用したスクリーントーンについては各図中に内容を示した。
6. 本文・図版・注記などに使用した遺構名の略称は、以下のとおりである。
SI：竪穴建物跡 SA：柵列 ST：竪穴状遺構 SK：土坑 SD：溝 P：ピット SN：畝跡 TR：トレンチ
7. 挿図に国土地理院発行1/25,000『前橋』『下室田』、国土地理院発行1/200,000『宇都宮』『長野』、高崎市発行1/2,500都市計画図を一部改変引用した。
8. 本書で使用したテフラ（火山噴出物）記号は以下のとおりである。
A s - B：浅間B軽石（嘉承3・天仁元年：1108年） H r - F P：榛名一ニッ岳伊香保テフラ（6世紀中頃）
H r - F A：榛名一ニッ岳渋川テフラ（6世紀初頭） A s - C：浅間C軽石（3世紀後葉～4世紀前半）
A s - Y P：浅間坂鼻黄色テフラ

目次

例言・凡例・目次

I 調査に至る経緯	1	2. 櫛列	18
II 遺跡の立地と環境	2	3. 竪穴状遺構	18
1. 地理的環境	2	4. 土坑	19
2. 歴史的環境	2	5. 溝	26
III 調査の方法と経過	5	6. ビット	29
1. 調査の方法	5	7. 畠	36
2. 調査の経過概要	5	8. 遺物包含層	38
IV 基本層序	6	9. 遺構外出土遺物	39
V 検出された遺構と遺物	6	VI まとめ	41
1. 竪穴住居跡	6	写真図版・抄録・奥付	

挿図目次

第1図 調査区域図	1	第22図 S K遺構図(1)	21
第2図 遺跡の位置	2	第23図 S K遺構図(2)	23
第3図 周辺の遺跡	4	第24図 S K遺構図(3)	25
第4図 基本層序	6	第25図 S K遺物実測図	25
第5図 全体図	7	第26図 S D-1遺構図	26
第6図 S I-1遺構図(1)	8	第27図 S D-1遺物実測図	27
第7図 S I-1遺構図(2)	9	第28図 S D-2遺構図	27
第8図 S I-1遺物実測図	10	第29図 S D-2遺物実測図	28
第9図 S I-2遺構図	11	第30図 S D-3遺構図	28
第10図 S I-2遺物実測図	12	第31図 S D-4遺構図	29
第11図 S I-3遺構図(1)	12	第32図 ビット位置図(1)	30
第12図 S I-3遺構図(2)	13	第33図 ビット位置図(2)	31
第13図 S I-3遺物実測図	14	第34図 ビット遺物実測図	35
第14図 S I-4遺物実測図	15	第35図 S N-2遺構図	36
第15図 S I-4遺構図	15	第36図 S N-1遺構図	37
第16図 S I-5遺構図	16	第37図 遺物包含層範囲図	38
第17図 S I-6遺構図(1)	16	第38図 遺物包含層遺物実測図	39
第18図 S I-6遺構図(2)	17	第39図 遺構外出土遺物実測図(1)	39
第19図 S I-6遺物実測図	17	第40図 遺構外出土遺物実測図(2)	40
第20図 S A-1遺構図	18	第41図 医光寺位置図	42
第21図 S T-1遺構図	19	第42図 ビット群建物・柱穴列想定図	42

挿表目次

第1表 S I-1遺物観察表	11	第5表 S I-6遺物観察表	18
第2表 S I-2遺物観察表	12	第6表 S T-1遺物観察表	19
第3表 S I-3遺物観察表	14	第7表 S K遺物観察表(1)	25
第4表 S I-4遺物観察表	15	第8表 S K遺物観察表(2)	26

第9表	SD-1 遺物観察表	27
第10表	SD-2 遺物観察表	28
第11表	ビット一覧表(1)	29
第12表	ビット一覧表(2)	32
第13表	ビット一覧表(3)	33
第14表	ビット一覧表(4)	34

第15表	ビット一覧表(5)	35
第16表	ビット遺物観察表(1)	35
第17表	ビット遺物観察表(2)	36
第18表	遺物包含層遺物観察表	38
第19表	遺構外出土遺物観察表	40

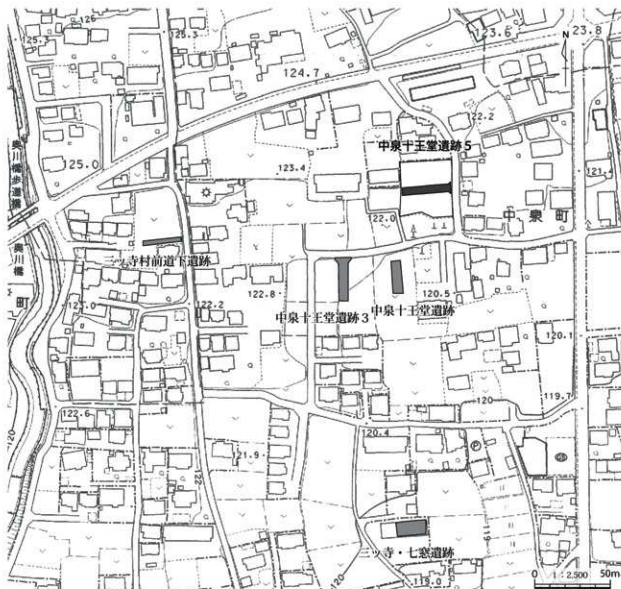
写真図版目次

P.L. 1	遺跡遠景(南東から) 遺跡全景(上が北)	SK-21 全景(西から) SK-22 全景(北から)
P.L. 2	調査区全景(西から) 調査区全景(上が北)	SD-1 全景(南東から)
P.L. 3	SI-1 全景(南東から) SI-1 遺物出土状態(北西から) SI-1 遺物出土状態近景(西から) SI-1 炉跡(西から) SI-1 炉跡載ち割り(東から) SI-1 貯蔵穴(南東から) SI-1 掘方(北西から) SI-1 掘方西半側近景(南東から)	P.L. 7 SD-1 全景(北から) SD-2 全景(北西から)
P.L. 4	SI-2 全景(南東から) SI-3 全景(南西から) SI-3 遺物・焼土・炭化物検出状態(南西から) SI-3 遺物出土状態(南西から) SI-3 遺物出土状態近景(南西から) SI-3 炉跡土層断面(西から) SI-3 掘方(南西から) SI-4 全景(南東から)	P.L. 8 SD-1 調査区南壁土層断面(北から) SD-2 調査区北壁土層断面(南東から) SD-3 調査区南壁土層断面(北から) SD-4 調査区北壁土層断面(南から) SD-3・4 全景(北から)
P.L. 5	SI-4 遺物出土状態(西から) SI-5 全景(南東から) SI-6 全景(南東から) ST-1 全景(北から) ST-1 土層断面(北から) ST-1 東壁下ビット検出状況(西から) SK-3 全景(北西から) SK-8 全景(南東から)	P.L. 9 SA-1、ビット群(上が北) P-3 石白出土状態(西から) P-97 土層断面(東から) P-162 柱痕検出状況(東から) P-163 柱痕検出状況(南から)
P.L. 6	SK-9 全景(北から) SK-14 全景(北から) SK-16 全景(北から) SK-17 全景(東から) SK-18 全景(北東から)	P.L. 10 SN-2 全景(北東から) SN-2 確認状況(北西から) TR-1~3 全景(南西から) TR-3 内遺物包含層遺物出土状態(南から) 基本層序(西)土層断面(南から) 基本層序(東)土層断面(西から) 作業風景(北東から) 作業風景(南東から)
		P.L. 11 出土遺物(1)
		P.L. 12 出土遺物(2)
		P.L. 13 出土遺物(3)
		P.L. 14 出土遺物(4)

I 調査に至る経緯

令和4年9月中旬、群馬グランディハウス株式会社から高崎市中泉町において計画している建売分譲住宅工事に先立ち、埋蔵文化財の照会が市教育委員会文化財保護課（以下、「市教委」と略）にあった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地に該当するため、工事に際しては協議が必要である旨を回答した。令和4年10月20日には、市教委へ埋蔵文化財試掘（確認）調査依頼書が提出され、令和4年12月14日に試掘（確認）調査を実施した。その結果、古代と想定される竪穴建物跡等の遺構が確認され埋蔵文化財の所在が明らかになった。この結果を踏まえ、開発者と市教委とで遺跡の保存に係る協議を行ったが、現状保存は困難との結果となり、記録保存を目的とした発掘調査を実施することで合意した。なお、遺跡名については「中泉十王堂遺跡5」とした。

発掘調査は、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要項」に順じ、令和5年2月8日、群馬グランディハウス株式会社・毛野考古学研究所との間で契約を締結、また同日に群馬グランディハウス株式会社・有限会社毛野考古学研究所・市教委での三者協定も締結し、調査の実施にあたっては市教委が指導・監督することとなった。



※高崎市発行 1/2,500 高崎市都市計画基本図をもとに一部加筆・修正し作成。

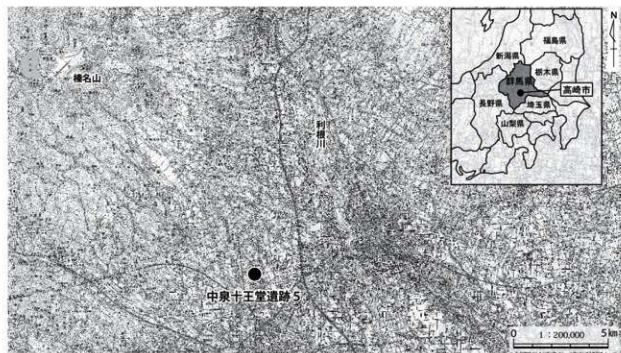
第1図 調査区域図

II 遺跡の立地と環境

1. 地理的環境

中泉十王堂遺跡5は榛名山の山麓扇状地である相馬ヶ原扇状地の南東端に立地している。相馬ヶ原扇状地は、約17,000年前に榛名山の山崩れで生じた陣馬岩層なだれにより形成されたもので、標高600m付近の榛名白川と午王頭川間にあたる榛東村上野原付近を扇頂とし、標高110m付近の井野川と午王頭川間を扇端とする。相馬ヶ原扇状地の扇頂部から流れる唐沢川・染谷川などの中小河川は、扇状地形の傾斜と同じく放射状に南東方向へ流下し、それぞれ井野川へと合流する。遺跡周辺はこれら中小河川の浸食作用によって微高地や谷地形が入り交じる複雑な地形が形成されている。本遺跡の西方260mには唐沢川、東方370mには扇中央部を水源とする天王川がそれぞれ南流し、本遺跡は両河川に挟まれた台地上に立地している。

当地域は2006年に高崎市へ編入する以前は群馬郡群馬町に属していた。遺跡の東側100mには高崎と渋川の市街地を南北に結ぶ高崎・渋川線（旧三国街道）、北方85mには東西に走る前橋安中富岡線が交差する。これら主要地方道路の沿線には近年大型店舗やチェーン店などが増えるとともに市街地化が進んでいるが、大通りから少し外れると細く入り組んだ道路に区画された住宅や畑地などが広がっている。その一方で、高崎・渋川線と接続予定の西毛広域幹線道路の建設による利便性向上もあって、住宅や畑地の一角が新興住宅地へと近年移り変わっている。



※国土地理院発行1/200,000『宇都宮』『長野』を改変。

第2図 遺跡の位置

2. 歴史的環境

中泉十王堂遺跡5は唐沢川と天王川に挟まれた微高地上に立地する。中泉十王堂遺跡はこれまでに数回ほど発掘調査が行われており、古墳時代前期集落・畠、古代集落・用水路が確認されている。ここでは本遺跡周辺の遺

跡について旧石器から古代までを概観することとする。

旧石器時代 榛名山南東麓では遺跡は希薄で、わずかな遺物の出土が散見される程度である。

縄文時代 前期頃までは扇状地の洪積作用の影響か、遺構・遺物は依然として希薄であるが、前期では三ツ寺Ⅱ遺跡(29)から黒沢式及び諸磯Ⅱ式期の住居及び土坑が検出されている。中期になると本遺跡南方の唐沢川・天王川流域でやや散見されるようになり、権現原Ⅱ遺跡(9)・大八木箱田池遺跡(14)・大八木箱田池遺跡Ⅱ(15)・雨壺遺跡(18)・正観寺遺跡群(40)で阿玉台式・勝坂式・加曾利Ⅲ式の住居跡や土坑が確認されている。大八木箱田池遺跡Ⅱ・雨壺遺跡などでは後期まで継続しており、集落が定着化する傾向がみられる。

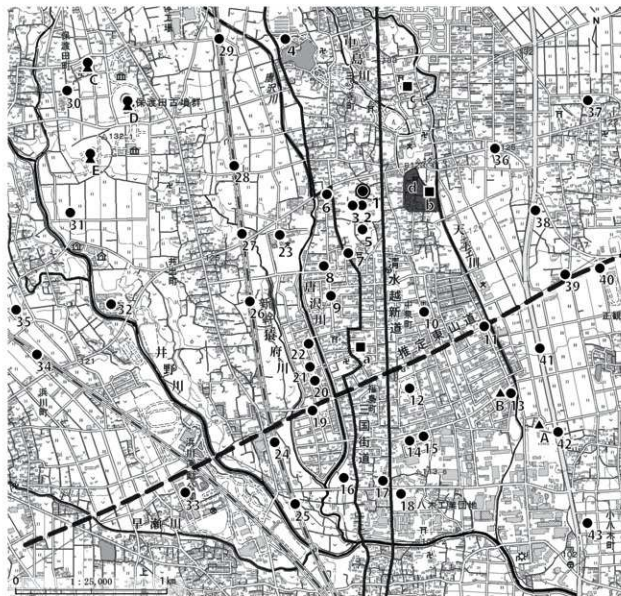
弥生時代 集落の形成は依然として希薄だが、中期に入ると大八木・伊勢廻遺跡2(17)・雨壺遺跡(18)・熊野堂遺跡(24・25)から竪穴建物・掘立柱建物跡・土坑が検出され、古墳時代ないしは古代まで断続的に集落が形成される。大八木・伊勢廻遺跡2では弥生後期初頭の竪穴建物から磨製石製作関連遺物が出土している。後期に入ると遺跡数は微増し、猿府川と唐沢川に挟まれた流域では西浦南遺跡(19)・西浦北遺跡(20)は該期のみだが、諸口遺跡(13)・正観寺遺跡群のほか、猿府川右岸の熊野堂遺跡・井出村東遺跡(26)、唐沢川右岸の三ツ寺Ⅱ遺跡では居住域・生産域(A s-C 軽石に被覆された水田跡)・墓域とが分布し、古墳時代あるいは古代まで継続して集落が形成される。この他、小八木志貝戸遺跡(42)では土器棺墓が、福島富士腰南遺跡(16)・西浦北遺跡では方形周溝墓が築造される。

古墳時代 古墳は5世紀後半になると井野川流域に、墳丘長100m前後の前方後円墳3基(C~E)からなる保渡田古墳群が築造され、天王川流域には5世紀後半から6世紀前半に築造された前方後円墳・円墳の8基からなる諸口古墳群(B)、後期から終末期に築造された直径約45mの円墳であるオトウカ古墳(A)がある。

集落は前期では井野川と唐沢川の合流地点付近に位置する熊野堂遺跡など弥生時代後期から継続する集落に加え、中泉十王堂遺跡(1・2)・三ツ寺・七窓遺跡(5)・保渡田Ⅲ遺跡(30)で該期の住居跡が検出されている。中期に入ると、本遺跡南西700mに位置する三ツ寺Ⅰ遺跡(27)に豪族の居館が出現する。集落は大八木箱田池遺跡・井出村東遺跡・三ツ寺Ⅱ遺跡・中林遺跡(23)で検出されており、権現原Ⅰ遺跡(8)では後期まで継続する。後期では継続して集落が形成されている遺跡のほか、堤上遺跡(4)・三ツ寺Ⅰ遺跡・三ツ寺Ⅲ遺跡(28)から検出されており、古代まで継続する。

この他、A s-C 軽石やH r-F A層を基準に水田や畠の調査・確認がされており、畠は本遺跡でも検出されている。井野川左岸の同道遺跡(32)でA s-C・H r-F A・H r-F Pに被覆された水田跡、北畑遺跡(31)では畠と祭祀跡が検出されている。井野川右岸の芦田貝戸遺跡(33)では水田脇の微高地に作業小屋的な竪穴住居群が検出され、浜川館遺跡(34)・浜川高田遺跡(35)では水田と祭祀跡、芦田貝戸遺跡・浜川遺跡群ではA s-C・H r-F A・H r-F Pに被覆された水田跡が検出され、H r-F A下水田大畦内からは祭祀関連遺物が出土している。小八木志貝戸遺跡や正観寺遺跡群からも小区画水田のほか、前者からは灌漑湧水水源の井戸が検出されている。

奈良・平安時代 本遺跡南側には南西-北東方向に東山道と推定されているルートが走行しており、軸線上に位置する正観寺遺跡群・西浦南遺跡・福島飛池遺跡(11)からは道跡が検出されている。集落の形成は、8世紀になると関越自動車道沿いで顕著となるが、本遺跡地付近では弥生時代後期あるいは古墳時代から継続する集落のほか、唐沢川流域の本遺跡・中泉稲荷前遺跡(7)・大八木箱田池遺跡・福島富士腰南遺跡・大八木・伊勢廻遺跡2・雨壺遺跡から検出されている。この他、畠は堤上遺跡・三ツ寺村前道下遺跡(6)、用水路が中泉十王堂遺跡3(3)・三ツ寺村前道下遺跡、水田が中泉遺跡(10)・福島遺跡(12)・中林遺跡・正観寺西原遺跡・小八木志貝戸遺跡で検出されており、条里区画に即した水田区画が明らかとなっている。



No.	遺構名	主な時期・性格等
1	中京上三宮道跡 5	古墳時代前期～後期集落
2	中京上三宮道跡	古墳時代前期集落・高
3	中京上三宮道跡 3	古墳時代前期集落・古式用水路
4	東上道跡	古墳時代前期集落・古式用水路、平安時代遺
5	三ツ寺・上京道跡	古墳時代前期集落
6	三ツ寺村前道下道跡	古式用水路・高
7	中京堀前道跡	平安時代集落
8	難波原Ⅱ道跡	古墳時代中～後期集落、中世以降上層墓
9	難波原Ⅰ道跡	縄文時代中期集落、古墳時代後期～古式用水路、中世井戸・上層墓
10	中京道跡	平安時代集落
11	福島池道跡	新羅系山道
12	福島道跡	平安時代水田
13	諸口道跡	弥生時代後期～古墳時代前期集落
14	大八木箱田池道跡	縄文時代中期集落、古墳時代中期・古式用水路
15	大八木箱田池道跡Ⅱ	縄文時代中～後期集落、古墳時代～古式用水路
16	福島富士腰道跡	弥生時代後期方形周溝集落、平安時代集落
17	大八木・伊勢廻道跡 2	弥生時代中期～古墳時代前期・平安時代集落
18	南斎道跡	縄文時代中～後期・弥生時代中期～古墳時代前期・古式用水路
19	西浦南道跡	弥生時代後期集落
20	西浦北道跡	弥生時代後期集落・方形周溝集落
21	西浦北道跡Ⅱ	弥生時代後期集落
22	西浦北道跡Ⅲ	弥生時代後期集落
23	中林道跡	古墳時代中期集落、平安時代集落・水田
24	野野堂Ⅰ道跡	弥生時代中期～平安時代集落
25	野野堂Ⅱ道跡	弥生時代中期～古墳時代集落

No.	遺構名	主な時期・性格等
26	井出村東道跡	弥生時代後期・古墳時代中期集落
27	三ツ寺Ⅰ道跡	古墳時代中期集落、古墳時代後期～平安時代集落
28	三ツ寺Ⅲ道跡	古墳時代後期～平安時代集落
29	三ツ寺Ⅱ道跡	古墳時代前期集落
30	保渡田Ⅷ道跡	古墳時代前期集落、保渡田古墳群周溝道跡
31	北堀道跡	古墳時代集落・高・祭祀、古墳
32	廻道道跡	古墳・平安時代水田
33	西田且戸道跡	古墳・平安時代水田
34	新山集道跡	古墳時代水田・祭祀
35	新山高田道跡	古墳時代水田・祭祀
36	種島東浜三三街道跡	古墳～平安時代集落
37	岩谷万年日戸道跡	平安時代集落
38	岩谷石坂道跡	平安時代水田
39	岩谷石坂Ⅱ道跡	平安時代集落
40	上親寺道跡	弥生～平安時代集落
41	北親寺西原道跡	平安時代水田
42	小八木志且日戸道跡	縄文～平安時代集落、平安時代水田
43	小八木道跡	古式用水路
A	才下ウカ古墳	古墳時代後期～終末期古墳
B	諸口古墳	古墳時代中期～後期古墳
C	保渡田新堀古墳	5世紀末～6世紀初頭
D	保渡田八幡塚古墳	5世紀末～6世紀初頭
E	井出一子山古墳	5世紀後半～6世紀初頭
a	中京祭跡	中京の内出、真鍮製の支帳
b	真光寺	宝徳2(1450)年伽藍
c	種島新跡	中世(真跡址)
d	中京新跡	中世(真跡址)

第3図 周辺の遺跡

Ⅲ 調査の方法と経過

1. 調査の方法

今回の発掘調査は、高崎市教育委員会による試掘調査結果に基づき、道路敷設部分を対象に行った。開発対象面積は1,298㎡で、そのうちの157.91㎡を対象とした。

現地における発掘調査は重機で表土等を除去後、人力による遺構精査を行った。遺構の掘削はジョレン・移植ゴテなどの掘削用具にて行った。遺構の掘り下げにあたっては、遺物の出土状態に留意すると共に、土層観察用のベルトを設定し、遺構の埋没状態を確認した。記録作業は測量および写真撮影で対応し、遺構の写真撮影および実測図作成については、埋没土の堆積状態、完掘状態等、作業の進捗状況に応じて適宜行った。測量基準杭は世界測地系（国家座標Ⅹ系）に基づき設置した。平面測量はトータルステーション、断面測量は基準点からの測り込みによって実施した。写真撮影には、35mm判のフィルムカメラ（モノクロ/リバーサル）、デジタルカメラ（NikonD3400）を使用し、航空写真はドローン（HasselbladL1D-20c）で行った。

整理作業・報告書作成にあたっては、出土遺物は洗浄・注記をし、接合にはセメダインC、補強・復元にはエポキシ系樹脂を使用し、デジタル一眼レフカメラ（NikonD850）で撮影した。遺構図は修正を加えた第二次原因を作成し、Adobe Illustrator CS2を用いてデジタルトレースを行った。挿図および入稿用のデータはAdobe InDesign CS2を用いて編集した。

2. 調査の経過概要

【発掘調査】（令和5年3月1日～令和5年4月18日）

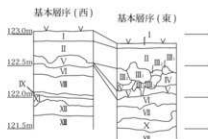
- 2月期 21日：事前準備。現地打ち合わせ。近隣の挨拶。28日：重機および発掘器材の搬入。
- 3月期 1日：重機による表土除去作業を開始。発掘作業員を動員し、調査区内外に対する安全対策および環境整備を行う。2日：重機による表土除去作業は終了。調査区西側より遺構検出作業を行う（～3日）。3日：土坑、溝、ピット、竈より掘削作業を行う。GPSによる基準点測量。9日：竈穴住居跡の掘削作業に着手。14日：竈穴状遺構の掘削作業に着手。
- 4月期 4日：基本層序のトレンチ掘削作業。空掘に備え、清掃等の準備を行う。6日：撮影準備を行い、ドローンによる調査区全景写真撮影。7日：竈穴住居跡の掘方調査および基本層序のトレンチ掘削作業。10日：縄文時代の遺構・遺物確認用のトレンチ掘削作業。11日：撮影準備を行い、ドローンによる調査区遠景写真撮影。12日：トレンチ掘削作業および撤収準備を行う（～14日）。14日：発掘器材の撤収。18日：遺構調査に係る工程を終え、高崎市教育委員会および群馬グランディハウス株式会社による現地調査の終了確認を受ける。現地における全作業工程終了。

【整理作業・報告書作成】（令和5年4月19日～令和5年11月30日）

- 4月期：遺構図面・写真の基礎整理。遺物洗浄・注記。
- 5月期：遺物洗浄・注記。
- 6月期：遺物の接合・復元・写真撮影。
- 7月期：遺構図面の修正。遺物実測・拓本。
- 8月期：遺構図面の第2次原因図作成。遺物トレース図作成。
- 9月期：各挿図・図版作成。原稿執筆。
- 10月期：各挿図・図版作成。原稿執筆。報告書の編集作業。入稿・校正。
- 11月期：印刷・製本。報告書刊行・納品。

IV 基本層序

基本土層の観察は調査区の北壁西寄り（基本層序（西））と調査区東壁南寄り（基本層序（東））の2か所でトレンチ掘削を行い、土層の堆積状況を観察した。遺構確認面は、およそS1-1より西側はVI層上面で、東側はIV層上面とした。狭小な調査範囲であるが、地形は近接する既知調査地を含め、西から南乃至は東へと緩傾斜している。S1-1付近から東端は埋没谷となっており、IV・V層からは縄文土器や石器が散見された（遺物包含層）。



基本層序（西） 土層説明

- I. 灰黄褐色土 しまり・粘性なし。As-B ϕ 1mm多量。
- II. 灰黄褐色土 しまり・粘性弱い。As-B ϕ 1mm多量。下層の状況により混入物にバラツキがある。As-C ϕ 1-3mm少量含む。
- V. にぶい黄褐色土 しまりあり。粘性ややあり。ローム粒・ロームブロック ϕ 5-15mm・灰色土ブロック ϕ 5-15mm中量。暗褐色土ブロック ϕ 5-10mm少量含む。
- VI. にぶい黄褐色土 しまりかなり強い。粘性ややあり。灰色土ブロック ϕ 5-20mm中量。As-YP ϕ 1-5mm・白色粒 ϕ 1-2mm少量含む。
- VII. 黄 色 土 しまりやや弱い。粘性なし。As-YP ϕ 1-5mm大量含む。一次堆積。
- IX. にぶい黄褐色土 しまりやや弱い。粘性あり。As-YP ϕ 1-3mm少量含む。
- XI. 明褐色土 しまりあり。粘性強い。白色シルトブロック ϕ 5-10mm少量。鉄屑多い。
- XII. 灰褐色土 しまり強い。粘性ややあり。混入物ほとんどない。鉄屑あり。
- XIII. 灰褐色土 しまり・粘性あり。灰色シルトブロック ϕ 5-30mm少量含む。鉄屑多い。土層より粘質。

基本層序（東） 土層説明

- I. 灰黄褐色土 しまり・粘性なし。As-B ϕ 1mm多量。
- II. 灰黄褐色土 しまり・粘性弱い。As-B ϕ 1mm多量。下層の状況により混入物にバラツキがある。As-C ϕ 1-3mm少量含む。
- III. 暗褐色土 しまりやや強い。粘性弱い。As-C ϕ 1-4mm多量。ロームブロック ϕ 5-10mm少量含む。鉄分沈着あり。
- IV. 暗褐色土 しまり・粘性あり。As-C ϕ 1-10mm中量。褐色土ブロック ϕ 5-10mm少量含む。
- V. 暗褐色土 しまり・粘性あり。As-C ϕ 1-5mm少量。褐色土ブロック ϕ 5-10mm微量含む。
- VI. 暗褐色土 しまり・粘性あり。白色粒 ϕ 1mm中量。黄褐色粒 ϕ 1mm・ロームブロック ϕ 5-10mm少量含む。鉄分沈着あり。
- VII. 暗褐色土 しまり・粘性あり。ロームブロック ϕ 5-20mm・暗褐色土ブロック ϕ 5-20mm中量。白色粒 ϕ 1mm少量含む。鉄分沈着少しあり。
- VIII. にぶい黄褐色土 しまり強い。粘性あり。ロームブロック ϕ 5-30mm多量。As-YP ϕ 1-3mm・暗褐色土ブロック ϕ 5-20mm中量。白色粒 ϕ 1mm少量含む。
- IX. にぶい黄褐色土 しまりややあり。粘性あり。白色粒 ϕ 1-2mm少量含む。
- X. 灰白色土 しまり・粘性やや弱い。 ϕ 1-2mmの灰白-黄白色粒大量。
- XI. 明褐色土 しまり・粘性強い。部分的に灰色粘質土が混入する（その粘質土中に炭化物あり）。

第4図 基本層序

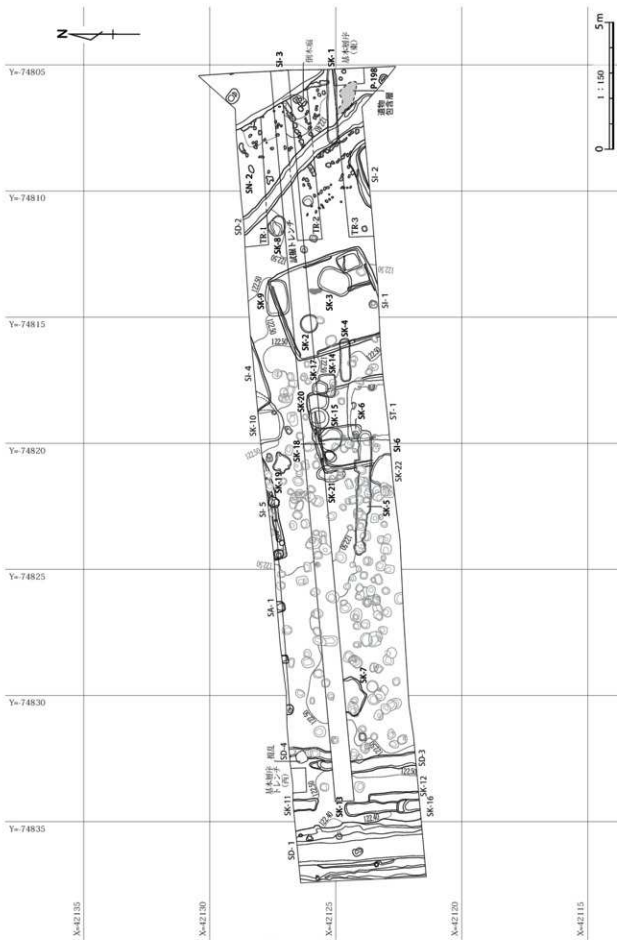
V 検出された遺構と遺物

1. 竪穴住居跡

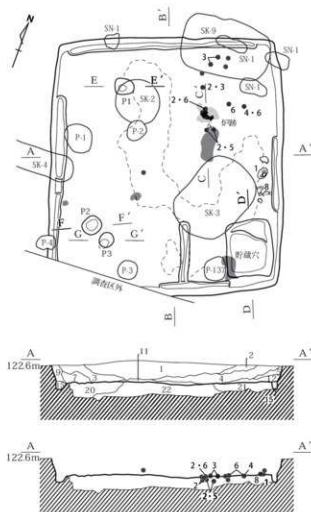
S1-1（第6～8図、第1表／P.L. 3・11）

位置：X=42124～42128、Y=-74813～-74817。長軸方位：N-18°-W。重複：S K-2～4・9、P-1～4・137、S N-1と重複し、先後関係は本遺構が古いと考えられる。南西隅は調査区外に及ぶ。

規模：長軸4.12m×短軸3.73m、壁現高0.40mを測る。床面：ロームブロック多量、As-C・褐色土ブロック・黒褐色土ブロックを含むにぶい黄褐色土を主体に貼床を構築。範囲の中央付近で硬化が顕著である。南側中央寄りから間仕切り溝状の掘り込みが確認された。炉跡：中央よりやや北東に位置する。床面に白色粘土を平たく敷いた粘土床炉である。長軸0.76m、短軸0.39mを測る。被熱の痕跡が著しく、粘土周辺及びその下も焼土化している状況が認められた。貯蔵穴：長軸0.92m、短軸0.76m、深さ0.53mを測る。平面形状が長方形基調の土坑が南東隅から検出された。埋没土下層にはロームブロックを多量に含む。柱穴：範囲内からピット3基（P1～3）が検出されたが、主柱穴は認められなかった。規模はP1が0.31×0.26m、深さ0.29m、P2が0.31×0.27m、深さ0.24m、P3が0.25×0.22m、深さ0.31m。壁周溝：断続的に壁下を巡る。遺構埋没状態：As-C・ロームブロックを多量に含む褐灰～黒褐色土による人為的な埋没と考えられる。掘方：中央は浅く、南側は長方形の土坑状に掘り込まれている。遺物：炉跡周辺からやや集中して出土した。土器器（壺・甕・鉢・器台・埴）、石製品。時期：埋没土及び出土遺物の観察から、古墳時代前期と想定される。

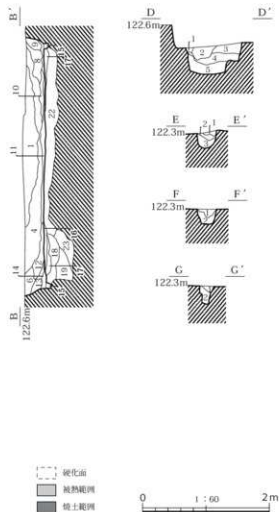


第5図 全体図



S1-1 土層説明 (A-A'・B-B')

- 暗褐色土 しまりあり、粘性弱い。AsC ϕ 1~15mm多量、ロームブロック ϕ 5~100mm中量含む。
- 暗灰色土 しまり・粘性ややあり。AsC ϕ 1~5mm中量、ロームブロック ϕ 5~10mm少量含む。
- 暗褐色土 しまり・粘性やや弱い。AsC ϕ 1~5mm・ロームブロック ϕ 5~80mm多量、炭灰・黒褐色土ブロック ϕ 5~20mm少量含む。
- 暗褐色土 しまりやや弱い、粘性強い。AsC ϕ 大層、炭灰 ϕ 5~10mm中量、ロームブロック ϕ 5~20mm少量含む。
- 黒褐色土 しまり・粘性ややあり。AsC ϕ 1~5mm・ロームブロック ϕ 5~10mm・黒褐色土ブロック ϕ 5~20mm少量含む。
- 黒褐色土 しまりあり、粘性ややあり。AsC ϕ 1~5mm中量、ロームブロック ϕ 5~10mm・炭灰 ϕ 5~10mm少量、焼土・炭灰粒層含む。
- 暗褐色土 しまりあり、粘性ややあり。AsC ϕ 1~5mm・ロームブロック ϕ 5~50mm・黒褐色土ブロック ϕ 5~50mm中量、焼土粒層含む。
- にぶい黄褐色土 しまりややあり。粘性やや弱い。AsC ϕ 1~15mm多量、ロームブロック ϕ 5~20mm中量、黒褐色土ブロック ϕ 5~15mm少量含む。
- 暗灰色土 しまり・粘性やや弱い。AsC ϕ 1~5mm中量、ロームブロック ϕ 5~10mm少量、炭灰粒層含む。
- 暗灰色土 しまり・粘性あり。AsC ϕ 1~5mm・ロームブロック ϕ 5~20mm少量含む。
- 暗灰色土 しまり・粘性あり。AsC ϕ 1~5mm中量、ロームブロック ϕ 5~15mm少量含む。
- 暗灰色土 しまりややあり。粘性あり。AsC ϕ 1~5mm中量、ロームブロック ϕ 5mm少量含む。
- 黒褐色土 しまり・粘性やや弱い。AsC ϕ 1~5mm多量、ロームブロック ϕ 5mm少量含む。
- 暗灰色土 しまりややあり。粘性あり。AsC ϕ 1~3mm・ロームブロック ϕ 5~30mm多量、炭灰粒少量含む。
- にぶい黄褐色土 しまりやや弱い、粘性ややあり。AsC ϕ 1~3mm少量、ロームブロック ϕ 5~50mm中量含む。
- にぶい黄褐色土 しまり弱い、粘性ややあり。AsC ϕ 1~3mm・ロームブロック ϕ 5~15mm中量含む。
- 暗褐色土 しまりあり、粘性ややあり。AsC ϕ 1~5mm・黒褐色土ブロック ϕ 5~40mm・褐色土ブロック ϕ 5~20mm少量含む。
- にぶい黄褐色土 しまり・粘性あり。AsC ϕ 1~10mm・ロームブロック ϕ 5~



- 60mm・褐色土ブロック ϕ 5~20mm中量、黒褐色土ブロック ϕ 5~20mm少量含む。
- 暗褐色土 しまりややあり。粘性あり。AsC ϕ 1~6mm多量、ロームブロック ϕ 5~80mm・黒褐色土ブロック ϕ 5~30mm中量含む。
- にぶい黄褐色土 しまりややあり。粘性あり。ロームブロック ϕ 5~80mm多量。AsC ϕ 1~5mm・AsYP ϕ 1~3mm・褐色土ブロック ϕ 5~50mm中量、黒褐色土ブロック ϕ 5~20mm少量含む。
- にぶい黄褐色土 しまり・粘性あり。AsC ϕ 1~10mm・ロームブロック ϕ 5~50mm多量、黒褐色土ブロック ϕ 5~30mm・褐色土ブロック ϕ 5~20mm中量含む。
- にぶい黄褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ロームブロック ϕ 5~200mm多量。AsC ϕ 1~10mm中量、褐色土ブロック ϕ 5~30mm少量、黒褐色土ブロック ϕ 5~30mm少量含む。
- にぶい黄褐色土 しまり・粘性あり。ロームブロック ϕ 5~80mm多量、褐色土ブロック ϕ 5~30mm中量、AsYP ϕ 1~20mm少量含む。

S1-1P1 土層説明 (E-E')

- にぶい黄褐色土 しまり・粘性ややあり。AsC ϕ 1~3mm・ロームブロック ϕ 5~10mm少量含む。
- にぶい黄褐色土 しまり・粘性ややあり。ロームブロック ϕ 5~20mm中量、AsC ϕ 1~3mm・AsYP ϕ 1~3mm少量含む。
- 暗褐色土 しまり・粘性あり。AsC ϕ 1~3mm・AsYP ϕ 1~3mm少量含む。

S1-1貯蔵穴 土層説明 (D-D')

- 黒褐色土 しまり・粘性ややあり。AsC ϕ 1~4mm多量、ロームブロック ϕ 5~15mm少量含む。
- 黒褐色土 しまり・粘性ややあり。AsC ϕ 1~4mm中量、ロームブロック ϕ 5mm少量含む。
- 黒褐色土 しまり・粘性ややあり。AsC ϕ 1~4mm多量、ロームブロック ϕ 5~20mm少量含む。
- 黒褐色土 しまりややあり。粘性あり。AsC ϕ 1~4mm・ロームブロック ϕ 5~20mm中量含む。
- 黒褐色土 しまり・粘性あり。ロームブロック ϕ 5~40mm中量、AsC ϕ 1~4mm少量含む。

第6図 S1-1遺構図(1)

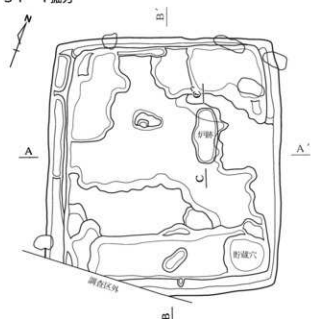
S I - 1 P 2 土層説明 (F-F')

1. 黒褐色土 しまり・粘性ややあり。As-C₀1~5mm中層、ロームブロック ϕ 5~10mm少量含む。
2. 暗褐色土 しまりあり、粘性ややあり。ロームブロック ϕ 5~30mm中層、As-C₀1~3mm少量含む。

S I - 1 P 3 土層説明 (G-G')

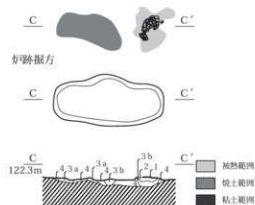
1. 黒褐色土 しまり・粘性ややあり。As-C₀1~5mm中層、ロームブロック ϕ 5~10mm・褐色土ブロック ϕ 5~20mm少量含む。
2. 暗褐色土 しまり・粘性ややあり。As-C₀1~5mm・ロームブロック ϕ 5~20mm中層、酸化粒少量含む。

S I - 1 掘方



0 1:60 2m

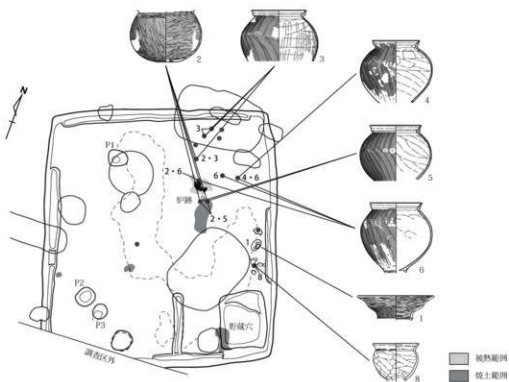
S I - 1 炉跡



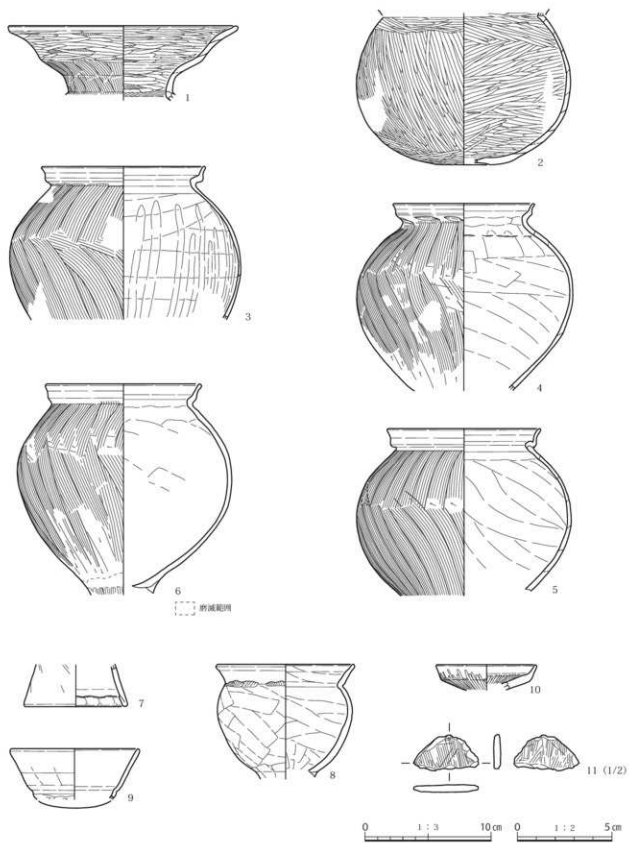
S I - 1 炉跡 土層説明 (C-C')

1. 酸化粘土 2層が焼けた状態、やや赤化し、硬化したとみられる。
2. 白色粘土 腐敗の強い粘土層、焼熟していない状態。
- 3a. 焼土 地山ローム土塊が赤く焼けた硬化した状態。
- 3b. 粘土 粘土ブロック ϕ 5~10mm多量。
4. 濃い黄褐色土 銀方埋土。

0 1:30 1m



第7図 S I - 1 遺構図 (2)



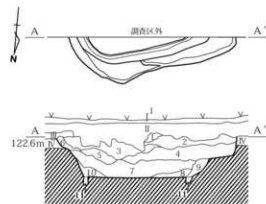
第8圖 S I - 1 遺物実測図

第1表 S I - 1 遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成形の特徴	備考
1	土師器 二重口鉢蓋	口径: 18.0 底径: 一 部高: (5.9)	口頸部	外面: 橙 内面: 浅黄橙	褐色粒・白 色粒・石英・ 礫石	焼化焼	外面: 口縁部ハケミダギ、頸部ハケ。 内面: 口縁部・頸部ハケミダギ。	口頸部内面に 赤色の粘附。
2	土師器 鉢	口径: 4.2 底径: (12.0)	胴部～ 底部2/3	外面: 暗赤褐色 内面: 暗赤褐色	赤褐色粒・ 白色粒	焼化焼	外面: 胴部～底部ミダギ。 内面: 胴部～底部ミダギ。	胴部外面腐付着。 底部外面 腐面あり。
3	土師器 台付甕	口径: (12.8) 底径: 一 部高: (14.8)	口縁部～ 胴部上半	外面: にぶい黄 褐色 内面: 灰黄	褐色粒・白 色粒・丹石・ 石英	焼化焼	外面: 口縁部ココナデ、胴部ケズリハケ。 内面: 口縁部ココナデ、胴部褐色コビエナデナデ。	5字状口縁。 腐付着。
4	土師器 台付甕	口径: 11.0 底径: 一 部高: (14.8)	口縁部～ 胴部下半	外面: にぶい黄 褐色 内面: にぶい黄 褐色	褐色粒・白 色粒・丹石	焼化焼	外面: 口縁部ココナデ、胴部ケズリハケ。 内面: 口縁部ココナデ、頸部ヘラナデ、胴部褐色コビエナデ ヘラナデ。	5字状口縁。 腐付着。
5	土師器 台付甕	口径: 12.0 底径: 一 部高: (13.2)	口縁部～ 胴部下半	外面: にぶい黄 褐色 内面: にぶい 黄褐色	褐色粒・白 色粒	焼化焼	外面: 口縁部ココナデ、胴部ケズリハケ。 内面: 口縁部ココナデ、頸部ヘラナデ、胴部ナデ。	5字状口縁。 腐付着。
6	土師器 台付甕	口径: 12.1 底径: 一 部高: (16.7)	口縁部～ 胴部下半	外面: にぶい黄 褐色 内面: にぶい 黄褐色	褐色粒・白 色粒	焼化焼	外面: 口縁部ココナデ、胴部ケズリハケ。 内面: 口縁部ココナデ、頸部ヘラナデ、胴部ナデ。	5字状口縁。 腐付着。
7	土師器 台付甕	口径: 一 底径: (8.0) 部高: (3.3)	台端部1/4	外面: にぶい黄 褐色 内面: にぶい赤 褐色	褐色粒・白 色粒	焼化焼	外面: 台部ナデ一部分的なハケ。 内面: 台部ナデ。	
8	土師器 台付甕	口径: 10.8 底径: 一 部高: (9.1)	口縁部～ 胴部下半	外面: にぶい黄 褐色 内面: にぶい黄 褐色	褐色粒・白 色粒・石英・ 礫石	焼化焼	外面: 口縁部ココナデ、胴部ハケナデ。 内面: 口縁部ココナデ、胴部ヘラナデ。	胴部外面に黒 煤あり、腐付 着。
9	土師器 用	口径: (10.0) 底径: 一 部高: (4.0)	口縁部～ 体部1/6	外面: 橙 内面: 橙	白色粒・石 英	焼化焼	外面: 口縁部ナデ上半ココナデ、体部ケズリ。 内面: 口縁部～体部ココナデ。	
10	土師器 蓋台	口径: (7.8) 底径: (2.0) 部高: (2.0)	口縁部～ 蓋受部1/4	外面: 浅黄褐色 内面: 浅黄褐色	褐色粒・白 色粒	焼化焼	外面: 口縁部ココナデ～蓋ミダギ、蓋受部ミダギ。 内面: 口縁部ココナデ、蓋受部ミダギ。	
No.	器種	法量 (cm)	残存	色調			重さ/石材/成形の特徴等	備考
11	不明石製品	長さ: (1.9) 幅: (3.4) 厚さ: 0.34	破片	重さ: 2.97g。石材: 粘板岩。板状。表面面とも研削調整。外周未調整。				

S I - 2 (第9・10図、第2表/PL. 4・11)

位置: X = 42124・42125, Y = -74808 ~ -74811。東西軸方位: (N - 68° - E)。重複: S N - 2 と重複し、先後関係は本遺構の方が新しいと考えられる。南側は調査区外に及ぶ。規模: 東西軸 <2.62> m × 南北軸 <0.95> m、壁現高 0.70 m を測る。床面: ロームブロックを多量に含む黒褐色土を主体に粘床を構築。炉跡・貯蔵穴: 検出された範囲からは確認されなかった。調査区外に位置するものと考えられる。柱穴: 確認されなかった。壁周溝: 検出された範囲で、壁下を巡る。遺構埋没状態: A s - C を多量、ロームブロックを含む褐色～暗褐色土で埋没する。遺物: 埋没土中から土師器(壺・甕)の破片が少量出土した。時期: 埋没土及び出土遺物の観察から、古墳時代前期と想定される。

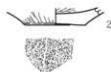
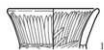


S I - 2 土層説明 (A-A')

1. 灰褐色土 しまり・粘性ややあり。As C ① ~ 3m 中層。粘土粒少量含む。
2. 褐色土 しまり・粘性ややあり。As C ① ~ 6m 多量。褐色土ブロック φ5 ~ 10 mm 少量含む。
3. にぶい黄褐色土 しまり・粘性ややあり。As C ① ~ 6m 多量。褐色土ブロック φ5 ~ 20mm 中層。ロームブロック φ5 ~ 10mm 少量含む。
4. 暗褐色土 しまり・粘性ややあり。As C ① ~ 3m・ロームブロック φ5 ~ 30mm・褐色土ブロック φ5 ~ 20mm 中層含む。
5. にぶい黄褐色土 しまり・粘性あり。ロームブロック φ5 ~ 30mm 多量。As C ① ~ 10m・褐色土ブロック φ5 ~ 20mm 中層含む。
6. 灰褐色土 しまり・粘性ややあり。As C ① ~ 3m 中層。褐色土ブロック φ5 ~ 10 mm 少量含む。
7. 暗褐色土 しまりあり。粘性ややあり。As C ① ~ 10m 多量。ロームブロック φ5 ~ 20mm 中層。壁土粒・炭化物少量含む。
8. 暗褐色土 しまりややあり。粘性あり。As C ① ~ 3m 中層。ロームブロック φ5 ~ 10mm 少量。壁土粒・炭化物少量含む。
9. 暗褐色土 しまりやや強い。粘性ややあり。As C ① ~ 3m・褐色土ブロック φ5 ~ 20mm 少量含む。
10. 暗褐色土 しまりややあり。粘性あり。As C ① ~ 4m 中層。ロームブロック φ5 ~ 10m・褐色土ブロック φ5 ~ 20mm 少量含む。
11. にぶい黄褐色土 しまり強い。粘性ややあり。ローム粒・ロームブロック φ5 ~ 15mm 中層含む。



第9図 S I - 2 遺構図



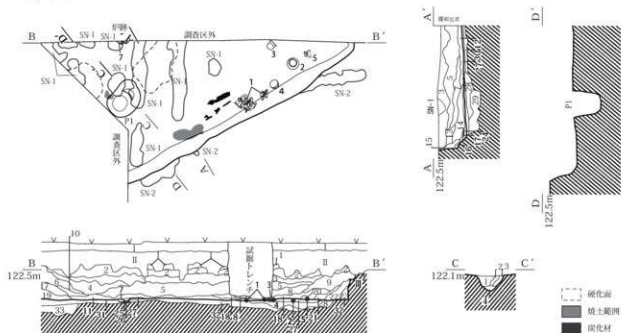
第10図 S I-2 遺物実測図

第2表 S I-2 遺物観察表

No.	器種	法冊 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成形の特徴	備考
1	土師器 甕	口径：(7.0) 底径：— 器高：(3.2)	口縁部 1/4	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	褐色粒・白色粒	焼化焼	外面：口縁部ヨコナデミガキ。 内面：口縁部ヨコナデミガキ。	外面に黒煎。
2	土師器 甕	口径：— 底径：(4.8) 器高：(1.4)	底部 1/3	外面：黒煎 内面：にぶい黄褐色	褐色粒・白色粒	焼化焼	外面：胴部ハケミガキ、底部ケズリ滑なミガキ。 内面：底部滑なミガキ。	

S I-3 (第11～13図、第3表/PL. 4・12)

位置：X = 42126 ~ 42131, Y = -74806 ~ -74808。長軸方位：N-33°-W。重複：S N-1・2と重複し、先後関係はS N-2→S I-3→S N-1と考えられる。西側が検出され、その他の範囲は調査区外に及ぶ。規模：長軸〈4.38〉m×短軸〈2.68〉m、壁現高0.60 mを測る。床面：ロームブロック・As-Cを多量に含むにぶい黄褐色土を主体に貼床を構築。炉跡：調査区東壁下、範囲の中央寄りから西半側が検出された。地床炉。北側に礫を据え置く。長軸〈0.19〉m、短軸〈0.06〉mを測る。炉面直上層にAs-C・ローム粒を含むにぶい黄褐色土が堆積。貯蔵穴：検出された範囲からは確認されなかった。調査区外に位置するものと考えられる。柱穴：範囲内からピット1基(P1)が検出されたが、支柱穴は認められなかった。規模は0.61×0.45 m、深さ0.47 m。掘方：壁下を溝状に掘り込んでいる。遺構埋没状態：As-C・ローム粒を含むにぶい黄褐色土で埋没する。遺物：南西隅、西壁下の埋没土下層～床面直上からやや集中して出土した。土師器(甕・甔・



S I-3 P1 土層説明 (C-C')

1. にぶい黄褐色土。しまり・粘性あり、As-C ϕ 1~5mm・ロームブロック ϕ 5~10mm中量含む。
2. にぶい黄褐色土。しまりややあり、粘性あり、ロームブロック ϕ 5~20mm中量、As-C ϕ 1~3mm少量含む。
3. 暗褐色土。しまりややあり、粘性あり、As-C ϕ 1~5mm少量、ロームブロック ϕ 5~10mm少量、焼土粒・炭化粒少量含む。
4. にぶい黄褐色土。しまり・粘性あり、ロームブロック ϕ 5~10mm少量、As-C ϕ 1~5mm少量、焼土粒少量含む。

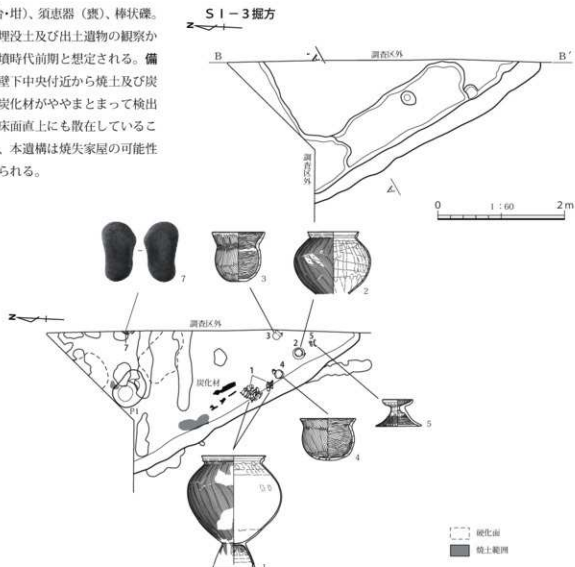


第11図 S I-3遺構図(1)

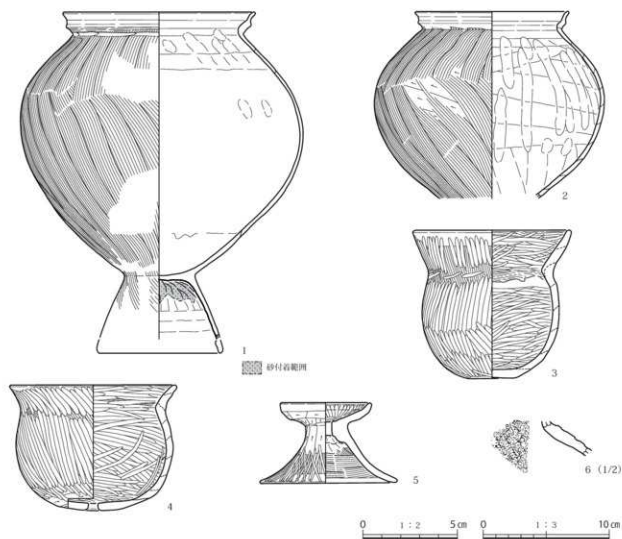
S I - 3 土層説明 (A-A'・B-B')

1. 褐色土 しまりあり。粘性ややあり。AsC ϕ 1~3m少量含む。鉄分沈着多し。
2. 黒褐色土 しまりあり。粘性ややあり。AsC ϕ 1~10m中層含む。鉄分沈着少ない。
3. 褐色土 しまりあり。粘性ややあり。AsC ϕ 1~8m多量。ロームブロック ϕ 5m少量含む。
4. にい黄褐色土 しまり・粘性ややあり。AsC ϕ 1~5m中層。ロームブロック ϕ 5~10m少量。焼土粒・炭化物微量含む。
5. にい黄褐色土 しまり・粘性あり。AsC ϕ 1~5m多量。ロームブロック ϕ 5~50m中層。炭化物少量含む。
6. 暗褐色土 しまりやや強い。粘性ややあり。AsC ϕ 1~5m・褐色土ブロック ϕ 5~20m中層含む。
7. にい黄褐色土 しまりやや強い。粘性弱い。AsC ϕ 1~5m・砂粒多量。ロームブロック ϕ 5~15m少量含む。
8. にい黄褐色土 しまり・粘性弱い。AsC ϕ 1~5m多量。褐色土ブロック ϕ 5~30m少量含む。
9. 灰褐色土 しまり・粘性ややあり。AsC ϕ 1~10m中層。褐色土ブロック ϕ 5~20m少量含む。
10. 灰褐色土 しまり・粘性ややあり。AsC ϕ 1~3m少量含む。
11. にい黄褐色土 しまりあり。粘性強い。ロームブロック ϕ 5~50m多量。炭化物・AsC ϕ 1~5m少量含む。
12. 暗褐色土 しまり・粘性あり。AsC ϕ 1~3m多量。ロームブロック ϕ 5m少量含む。
13. にい黄褐色土 しまり・粘性あり。AsC ϕ 1~8m。ロームブロック ϕ 5~20m中層。炭化物少量含む。
14. にい黄褐色土 しまりややあり。粘性あり。AsC ϕ 1~3m少量含む。
15. にい黄褐色土 しまり・粘性ややあり。AsC ϕ 1~5m少量含む。
16. 赤色土 しまりやや強い。粘性あり。焼土ブロック ϕ 5~50m。炭化物・AsC ϕ 1~3m少量含む。
17. 暗褐色土 しまりややあり。AsC ϕ 1~5m中層。褐色土ブロック ϕ 5~20m少量含む。
18. 暗褐色土 しまりやや強い。粘性ややあり。AsC ϕ 1~5m中層。焼土ブロック ϕ 5~50m少量。炭化物微量含む。
19. にい黄褐色土 しまり・粘性やや強い。AsC ϕ 1~5m中層。褐色土ブロック ϕ 5~20m少量含む。
20. 暗褐色土 しまり・粘性やや強い。AsC ϕ 1~5m多量含む。
21. にい黄褐色土 しまり・粘性強い。AsC ϕ 1~5m多量。褐色土ブロック ϕ 5~10m少量含む。
22. 暗褐色土 しまり・粘性あり。AsC ϕ 1~5m中層。褐色土ブロック ϕ 5~10m少量含む。
23. にい黄褐色土 しまり・粘性やや強い。AsC ϕ 1~5m中層。褐色土ブロック ϕ 5~20m少量含む。
24. にい黄褐色土 しまりややあり。粘性あり。ロームブロック ϕ 5~10m中層。AsC ϕ 1~3m少量含む。
25. にい黄褐色土 しまりやや強い。粘性ややあり。AsC ϕ 1~3m・ローム粒少量含む。
26. 赤色土 しまりやや強い。粘性あり。焼土粒多量。焼土ブロック ϕ 5~10m中層。炭化物・ローム粒少量含む。
27. にい黄褐色土 しまり強い。粘性あり。ロームブロック ϕ 5~20m・AsC ϕ 1~10m多量。焼土粒・炭化物少量含む。
28. 暗褐色土 しまり・粘性あり。AsC ϕ 1~5m多量。ロームブロック ϕ 5~30m・黒褐色土ブロック ϕ 5~50m・褐色土ブロック ϕ 5~30m中層。焼土粒・炭化物少量含む。
29. にい黄褐色土 しまり・粘性あり。ロームブロック ϕ 5~50m多量。AsC ϕ 1~4m少量含む。
30. にい黄褐色土 しまり・粘性あり。ロームブロック ϕ 5~100m多量。AsC ϕ 1~5m少量含む。
31. 褐色土 しまり・粘性あり。AsC ϕ 1~5m・ロームブロック ϕ 5~40m・褐色土ブロック ϕ 5~20m中層含む。
32. にい黄褐色土 しまり・粘性あり。ロームブロック ϕ 5~50m多量。AsC ϕ 1~5m微量含む。
33. 暗褐色土 しまり・粘性あり。ロームブロック ϕ 5~100m多量。黒褐色土ブロック ϕ 5~30m・褐色土ブロック ϕ 5~30m中層。AsC ϕ 1~5m少量含む。

鉢・器台・埴、須恵器(甗)、棒状罐。
 時期：埋没土及び出土遺物の観察から、古墳時代前期と想定される。備考：西壁下中央付近から焼土及び炭化物・炭化材がややまとまって検出され、床面直上にも散在していることから、本遺構は焼失家屋の可能性が考えられる。



第12図 S I - 3 遺構図 (2)



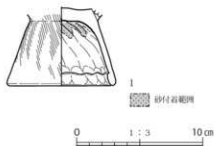
第13図 S I-3遺物実測図

第3表 S I-3遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成形の特徴	備考
1	土師器 台付甕	口径：15.0 底径：— 器高：(25.8)	4/5	外面：灰黄褐色 内面：褐灰	白色粒・輝石	酸化焼	外面：口縁部コナデ、頸部ハケ→沈線(右回り)、胴部ケズリ→ハケ、腹部ケズリ→部分のみハケ。 内面：口縁部コナデ、頸部ケズリ、胴部ナデ→ミガキ、腹部ミガキ→上端コナデツツケ。	S字状口縁。 外面現、内面コゲ付着。
2	土師器 台付甕	口径：12.0 底径：— 器高：(14.7)	口縁部～ 胴部下平	外面：にぶい黄褐色 内面：暗灰黄	褐色粒・白色粒	酸化焼	外面：口縁部コナデ、胴部ケズリ→ハケ。 内面：口縁部コナデ、頸部ナデ、腹部縦位ミガキ→ナデ。	S字状口縁。 外面保付着、胴部焼跡により赤色化。
3	土師器 甕	口径：12.2 底径：3.7 器高：11.7	完形	外面：にぶい黄褐色 内面：にぶい黄褐色	褐色粒・白色粒・石英	酸化焼	外面：口縁部ハケ→口縁部コナデ→ミガキ、胴部ナデ→ミガキ、底部ケズリ→ナデ。 内面：口縁部ハケ→ミガキ、胴部～底部ナデ→ミガキ。	胴部外面黒炭あり。
4	土師器 鉢	口径：13.0 穿孔径：0.9 器高：9.9	完形	外面：橙 内面：にぶい黄褐色	褐色粒・白色粒・丹骨	酸化焼	外面：口縁部コナデ→ミガキ、胴部上半ハケ→ミガキ、下半ケズリ→焼なミガキ。 内面：口縁部コナデ→ミガキ、胴部～底部ミガキ。	底部中央に焼成前穿孔あり。保付着。
5	土師器 器台	口径：7.0 脚端径：10.7 器高：6.4	ほぼ完形	外面：暗褐色 内面：灰黄褐色	褐色粒・白色粒・石英・角閃石	酸化焼	外面：口縁部コナデ、器受部ケズリ、脚部ハケ→上半ケズリ。 内面：口縁部～器受部ミガキ、脚部ナデ→ハケ→下端コナデ。	
6	土師器 甕	口径：— 底径：— 器高：—	胴部破片	外面：灰黄褐色 内面：明黄褐色	白色粒	酸化焼	外面：胴部ナデ→器受部工具の研突による横走羽状文。 内面：ナデ。	
重さ/石材/成形形の特徴等								
7	甕	長さ：14.3 幅：8.3 厚さ：4.1	完形	重さ：772.50g、石材：安山岩。棒状。				保付着。 計測及び写真撮影の決。

SI-4 (第14・15図、第4表/P.L. 4・5・12)

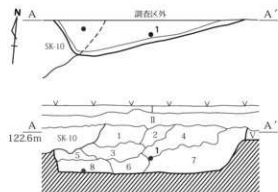
位置：X=42128・42129、Y=-74816~-74819。東西軸方位：N-71°-E。重複：SK-10と重複し、先後関係は本遺構が古いと考えられる。南西端が検出され、その他の範囲は調査区外に及ぶ。規模：東西軸<2.88>m×南北軸<0.79>m、壁現高0.80mを測る。床面：ロームブロック・As-C・暗褐色土・黒褐色土の混土による貼床を構築。炉跡・貯蔵穴・柱穴：検出された範囲からは確認されなかった。調査区外に位置するものと考えられる。壁周溝：確認されなかった。遺構埋没状態：ロームブロック・As-C・暗褐色土・黒褐色土ブロックを含むにぶい黄褐色~暗褐色土で埋没する。遺物：調査区北壁下の床面直上からS字状口縁台付甕の胴部片、南壁下中央寄りの埋没土中層から台部が出土した。土師器(壺・甕・器台) 時期：埋没土及び出土遺物の観察から、古墳時代前期と想定される。



第14図 SI-4 遺物実測図

第4表 SI-4 遺物観察表

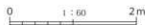
No.	部 種	法量 (cm)	残 存	色 調	胎 土	焼 成	成形の特徴	備 考
1	土師器 台付甕	口径：— 底径：8.2 器高：(6.1)	台部	外面：にぶい黄 褐色 内面：灰青 緑	褐色粒・白 色粒	備化焼	外面：台部ナデ→ハケ。 内面：底部ユビナデ、台部ユビナデ→上端ナデナツケ。	



第15図 SI-4 遺構図

SI-4 土層説明 (A-A')

1. 灰褐色土 しまりややあり、粘性やや弱い、AsCφ1~5mm多量、ローム粒・ロームブロックφ5~20mm・焼土粒・炭化物少量含む。
2. 暗褐色土 しまりややあり、粘性やや弱い、AsCφ1~6mm中量、ロームブロックφ5~10mm少量含む。
3. にぶい黄褐色土 しまりあり、粘性やや弱い、AsCφ1~5mm中量、ローム粒・ロームブロックφ5~10mm・暗褐色土ブロックφ5~20mm少量、炭化物微量含む。
4. 暗褐色土 しまりあり、粘性ややあり、AsCφ1~10mm多量、ロームブロックφ5~40mm中量、黒褐色土ブロックφ5~50mm少量含む。
5. にぶい黄褐色土 しまりややあり、粘性やや弱い、ローム粒・ロームブロックφ5~30mm多量、AsCφ1~3mm中量、焼土粒・炭化物少量含む。
6. 暗褐色土 しまり、粘性ややあり、ローム粒・AsCφ1~5mm多量、ロームブロックφ5~20mm中量、焼土粒少量含む。
7. にぶい黄褐色土 しまり・粘性やや弱い、AsCφ1~10mm・ローム粒・ロームブロックφ5~30mm・褐色土ブロックφ5~30mm多量、黒褐色土ブロックφ5~30mm少量、炭化物微量含む。
8. にぶい黄褐色土 しまりあり、粘性やや弱い、AsCφ1~6mm・ローム粒・ロームブロックφ5~50mm中量、炭化物・黒褐色土ブロックφ5~30mm少量含む。



SI-5 (第16図/P.L. 5)

位置：X=42127・42128、Y=-74821~-74825。長軸方位：N-77°-E。重複：SA-1、複数のピットと重複し、先後関係は本遺構が古いと考えられる。南側が検出され、その他の範囲は調査区外に及ぶ。規模：東西軸<4.10>m×南北軸<0.61>m、壁現高0.40mを測る。床面：凹地にAs-Cを含む暗褐色土が多少充填されるが、ローム主体の地山硬化床である。貯蔵穴・柱穴：検出された範囲からは確認されなかった。調査区外に位置するものと考えられる。壁周溝：検出された範囲では断片的に南壁下を巡る。遺構埋没状態：As-Cを多量、ロームブロック・焼土・炭化物を含む褐色~暗褐色で埋没する。遺物：なし。時期：不詳。埋没土の観察では、SI-6と近い構築時期と推測される。備考：埋没土中に焼土・炭化物が比較的多く含まれるため、本遺構は焼失家屋と考えられる。

品(砥石)。時期：埋没土及び出土遺物の観察から、古墳時代後期と想定される。備考：北壁下中央付近にカマドなど火の使用を伴う施設があった可能性が考えられる。

S1-6 野間穴, 床下土坑2 土層説明 (C-C')

1. 黒褐色土 しまり・粘性ややあり。As-Ce1~5m多量。ロームブロックφ5~10mm中。焼土粒少量含む。
2. 暗褐色土 しまり強い。粘性あり。As-Ce1~5m・ロームブロックφ5~20mm中を含む。
3. に近い黄褐色土 しまり強い。粘性あり。ロームブロックφ5~50mm多量。As-YPφ5~20mm・焼土粒・炭化物少量含む。
4. に近い黄褐色土 しまり・粘性ややあり。ロームブロックφ5~10mm中。As-Ce1~5m・炭化物・焼土粒少量含む。
5. に近い黄褐色土 しまり・粘性ややあり。ロームブロックφ5~30mm多量。As-Ce1~3m少量含む。
6. に近い黄褐色土 しまりあり。粘性ややあり。ロームブロックφ5~60mm多量。As-Ce1~5m中。焼土粒少量含む。

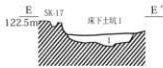
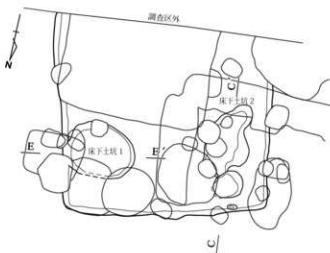
S1-6 土層説明 (D-D')

1. 灰白色土 しまり・粘性あり。白色粘土多量。焼土粒・焼土ブロックφ5~10mm中。As-Ce1~3m少量含む。
2. 黒褐色土 しまりややあり・粘性あり。焼土粒・焼土ブロックφ5~10mm中。As-Ce1~5m少量含む。
3. 暗赤褐色土 しまり・粘性ややあり。焼土粒・焼土ブロックφ5~15mm多量。As-Ce1~5m・炭化物少量。暗褐色土ブロックφ5~15mm微量含む。
4. 暗褐色土 しまり・粘性ややあり。焼土粒少量含む。
5. 灰黄褐色土 しまり・粘性あり。ロームブロックφ5~30mm多量。As-Ce1~5m少量含む。

S1-6 土層説明 (A-A'・B-B')

1. 暗褐色土 しまり・粘性ややあり。As-Bφ1m・As-Ce1~4m中。ロームブロックφ5m・焼土粒・炭化物少量含む。
2. 灰褐色土 しまり・粘性ややあり。As-Ce1~3m多量。ロームブロックφ5~15mm中。焼土粒・炭化物少量含む。
3. に近い黄褐色土 しまり弱い。粘性ややあり。As-Bφ1m・焼土ブロックφ5~20mm・炭化物・ロームブロックφ5~30mm中。As-Ce1~5mm少量含む。下部ブロックφ5~30mm微量含む。
4. 灰褐色土 しまり・粘性ややあり。As-Ce1~3m多量。ロームブロックφ5~15mm中。焼土粒・炭化物微量含む。
5. に近い黄褐色土 しまり・粘性ややあり。ロームブロックφ5m中。As-Ce1~2m・焼土粒少量含む。
6. 暗褐色土 しまりややあり。粘性やや弱い。ロームブロックφ5~20mm・褐色土ブロックφ5~30mm中。As-Ce1~3m・焼土粒少量含む。
7. 暗褐色土 しまりやや弱い。粘性あり。As-Ce1~3m・焼土粒・ロームブロックφ5~10mm少量含む。
8. 灰褐色土 しまりあり。粘性ややあり。ロームブロックφ5~80mm多量。As-Ce1~5m・焼土ブロックφ5~10mm・炭化物中量含む。
9. に近い黄褐色土 しまり・粘性あり。ロームブロックφ5~20mm多量。As-Ce1~3m少量含む。
10. に近い黄褐色土 しまりややあり。粘性あり。ロームブロックφ5~10mm多量含む。
11. に近い黄褐色土 しまり・粘性ややあり。ロームブロックφ5~30mm多量。As-Ce1~3m少量含む。
- ①. 暗褐色土 しまりややあり。粘性やや弱い。As-Ce1~5m多量。As-Bφ1m中。ロームブロックφ5~30mm少量。焼土粒・炭化物微量含む。

S1-6 掘方

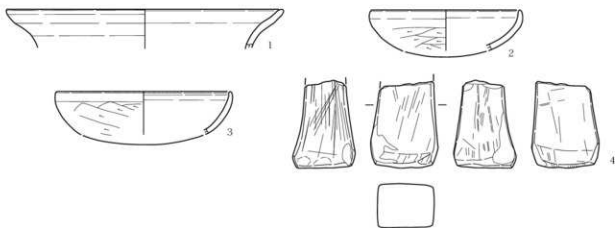


S1-6床下土坑1 土層説明 (E-E')

1. に近い黄褐色土 しまりあり。粘性ややあり。ロームブロックφ5~50mm・As-YPブロックφ5~80mm多量。As-Ce1~5m中を含む。



第18図 S1-6遺構図(2)



第19図 S1-6遺物実測図

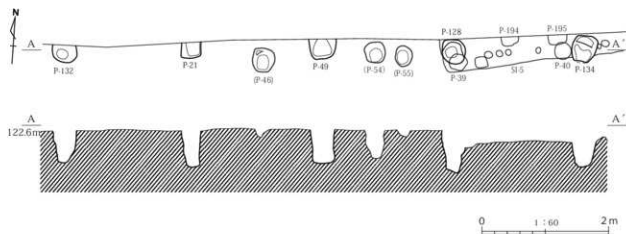
第5表 S I - 6 遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成形の特徴	備考
1	土師器 甕	口径:(21.8) 底径:— 器高:(3.1)	口縁部 破片	外面:橙 内面:橙	白色粒・石 灰・輝石	焼化燻	外面:口縁部コナデ。 内面:口縁部コナデ。	
2	土師器 坏	口径:(11.8) 底径:— 器高:(3.2)	口縁部 1/6 ～体部	外面:橙 内面:橙	白色粒・輝 石	焼化燻	外面:口縁部コナデ、体部ケズリ。 内面:口縁部～体部コナデ。	
3	土師器 坏	口径:(13.8) 底径:— 器高:(3.4)	口縁部～ 体部 1/6	外面:橙 内面:橙	白色粒	焼化燻	外面:口縁部コナデ、体部ナデ→ケズリ。 内面:口縁部～体部コナデ。	
No.	器種	法量 (cm)	残存	重さ / 石材 / 成形の特徴等				備考
4	石製品 硯石	長さ:(6.9) 幅:5.4 厚さ:4.9	1/2	重さ:230.97g。石材:流紋岩。型ケズリにより四角柱に加工。表面面、両側面研削。				

2. 柵列

SA-1 (第20図/P.L. 9)

位置: X=42127・42128, Y=-74823～-74831。調査区北壁下の中央寄りから検出された。範囲の制限等もありやや不規則ではあるが、一本柱列と推定した。重複: S I - 5、P-39・40と重複し、先後関係は S I - 5→SA-1→P-39・40と考えられる。長軸方位: N-86°-E。規模: 範囲内で想定した総延長は 8.30m、柱間は 2.05m 前後を測る。柱穴の形状: 平面形は不整な方形、断面形逆台形～箱型基調である。遺構埋没状態: A s-Y P・A s-C・ロームブロックを含む灰褐～にぶい黄褐色土が埋没する。P-49・134では柱痕が認められた。遺物: P-49から土師器細片、P-128から土師器(甕)・土師質土器(かわらけ)が埋没土中から出土した。時期: 埋没土の観察から古代以降乃至は中世以降と想定される。



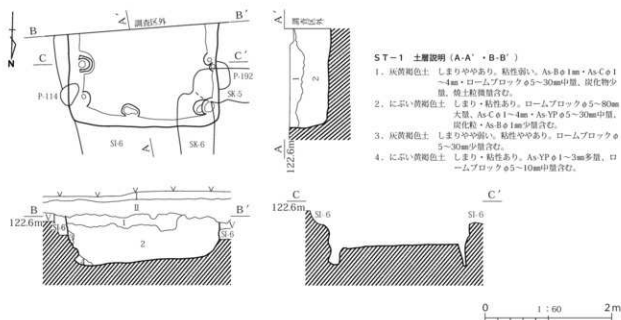
第20図 SA-1遺構図

3. 竅穴状遺構

ST-1 (第21図、第6表/P.L. 5・13)

位置: X=42123～42125, Y=-74818～-74820。重複: S I - 6、SK-5・6、P-114・129・192と重複し、先後関係は S I - 6→ST-1→SK-5・6と考えられるが、各ピットとは不詳である。北側が検出され、南側は調査区外に及ぶ。長軸方位: N-90°。平面形態: 方形を呈する。規模: 長軸<2.44>m×短軸<1.69>mで、深さは0.69mを測る。床面の状態: 多少の起伏を有する。硬化面や貼床の類いは認められなかった。北壁中央下と東西壁下からそれぞれ2基のピットが検出され、これらはほぼ等間隔となるよう整然と配置されているようである。規模は<0.06>～<0.26>m。床面からの深さは0.17～0.35mを測り、北壁際

のピットより中央寄りのピット方がより深く掘削されている。遺構埋没状態：A s-B・A s-C・ロームブロックを含む褐灰～にぶい黄褐色土による人為的な埋め戻しと考えられる。遺物：埋没土中から出土した。陶器（甕／常滑）・内耳鍋・土器（かわらけ）・土師器（甕）、台石。時期：埋没土の観察及び出土遺物から、中世以降と想定される。



第21図 ST-1遺構図

第6表 ST-1遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	残存	重さ/石材/成形の特徴等	備考
1	石製品 台石カ	長さ：13.4 幅：200 厚さ：10.1	1/2	重さ：290.38g, 石材：安山岩。表面は一部摩滅し、数分が付着。	計測及び写真撮影のみ。

4. 土坑

SK-1 (第22図、第7表)

位置：X=42125・42126、Y=-74806～-74809。長軸方位：N-90°。重複：SD-2、SN-2と重複し、先後関係はSN-2→SD-2→SK-1と考えられる。東側は調査区外へ及び。規模：長軸<2.97>m×短軸0.44m、壁現高0.08mを測る。形態：平面は溝状に細長い不整長楕円形、断面は逆台形を呈する。遺構埋没状態：A s-B・ロームブロックを多く含む灰黄褐色土による人為的な埋め戻しと考えられる。しまり・粘性とも弱い。出土遺物：土師器・須恵器（甕）。時期：埋没土の観察から中世以降と想定される。備考：SN-1との相関関係が想起される。

SK-2 (第22図)

位置：X=42126・42127、Y=-74815・-74816。重複：SI-1、P-2と重複し、先後関係は本遺構が新しいと考えられる。規模：長軸0.71m×短軸0.69m、壁現高0.10mを測る。形態：平面は円形、断面は逆台形を呈する。遺構埋没状態：A s-C・SI-1埋没土ブロック・ロームブロックを含む褐灰色土による人為的な埋め戻しと考えられる。出土遺物：なし。時期：埋没土の観察から、古代以降と想定される。

SK-3 (第22・25図/P.L. 5・13)

位置：X=42125・42126、Y=-74814・-74815。長軸方位：N-22°-E。重複：SI-1と重複し、

先後関係は本遺構が新しいと考えられる。規模：長軸1.36m×短軸0.99m、壁現高0.21mを測る。形態：平面は隅丸長方形基調、断面は逆台形を呈する。遺構埋没状態：A s-C・ロームブロックを含む灰黄褐～褐色土による人為的な埋め戻しと考えられる。出土遺物：土師器（杯・甕）、土器（かわらけ）。時期：埋没土の観察から、古代以降と想定される。

SK-4（第22図）

位置：X=42125、Y=-74816～-74818。長軸方位：N-88°-E。重複：S I-1、P-179・184と重複し、先後関係は本遺構が新しいと考えられる。規模：長軸1.72m×短軸0.46m、壁現高0.08mを測る。形態：平面は不整隅丸長方形、断面は逆台形を呈する。遺構埋没状態：A s-B多量、A s-C・ロームブロックを含む灰黄褐色土による人為的な埋め戻しと考えられる。出土遺物：なし。時期：埋没土の観察から、中世以降と想定される。

SK-5（第22図）

位置：X=42124・42125、Y=-74820～-74825。長軸方位：N-87°-W。重複：S I-6、S T-1、複数のピットと重複し、先後関係は本遺構が新しいと考えられる。規模：長軸4.94m×短軸0.70m、壁現高0.11mを測る。形態：平面は溝状に細長い不整長方形で、断面は皿状～逆台形を呈する。遺構埋没状態：A s-B・A s-C・ロームブロックを含む灰黄褐色土による人為的な埋め戻しと考えられる。出土遺物：なし。時期：埋没土の観察から、中世以降と想定される。備考：S N-1、SK-6との相関関係が想起される。

SK-6（第22・25図、第7表/P L、13）

位置：X=42124～42126、Y=-74820。長軸方位：N-6°-W。重複：S I-6、S T-1、SK-18、P-145・160のピットと重複し、先後関係は本遺構が新しいと考えられる。規模：長軸1.75m×短軸0.59m、壁現高0.08mを測る。形態：平面は溝状に細長い不整長方形で、断面は皿状～逆台形を呈する。遺構埋没状態：A s-B多量、A s-C・ロームブロックを含む灰黄褐色土による人為的な埋め戻しと考えられる。出土遺物：土師器（杯・甕）、土器（かわらけ）。時期：埋没土および出土遺物の観察から、中世以降と想定される。備考：S N-1、SK-5との相関関係が想起される。

SK-7（第22図）

位置：X=42124・42125、Y=-74830・-74831。重複：P-41・42と重複し、先後関係は本遺構が新しいと考えられる。北側は試掘トレンチにより確認することができなかった。規模：長軸<1.37>m×短軸<1.18>m、壁現高0.13mを測る。形態：平面は不整形で、断面は皿状を呈する。底面は起伏が著しい。遺構埋没状態：A s-B・ロームブロックを含む灰黄褐～暗褐色土による人為的な埋め戻しと考えられる。出土遺物：土師器（S字状口縁台付甕）。時期：埋没土の観察から、中世以降と想定される。

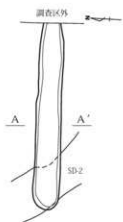
SK-8（第22図/P L、5）

位置：X=42128、Y=-74811・-74812。長軸方位：N-52°-W。重複：S N-1と重複し、先後関係は本遺構が古いと考えられる。規模：長軸0.81m×短軸0.69m、壁現高0.29mを測る。形態：平面は不整楕円形で、断面は段を有し、逆台形を呈する。遺構埋没状態：A s-C・黒褐色土ブロック多量、ロームブロックを含む褐色土による人為的な埋め戻しと考えられる。出土遺物：須恵器（杯）。時期：埋没土の観察から、古代以降と想定される。

SK-9（第22図/P L、6）

位置：X=42127・42128、Y=-74814・-74815。長軸方位：N-87°-E。重複：S I-1、S N-1と重複し、先後関係はS I-1→SK-9→S N-1と考えられる。規模：長軸1.44m×短軸0.94m、壁現高0.28mを測る。形態：平面は隅丸長方形で、断面は逆台形を呈する。遺構埋没状態：A s-B多量、A s-C・ロームブロックを含む灰黄褐～褐色土による人為的な埋め戻しと考えられる。出土遺物：土師器（杯・高杯・甕）。時期：埋没土の観察から、中世以降と想定される。

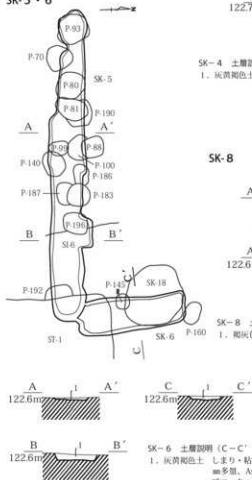
SK-1



SK-1 土層説明 (A-A')

1. 灰黄褐色土 しまり・粘性強い、As-B ϕ 0.5~1mm多量、ロームブロック ϕ 5~15mm中量、As-C ϕ 1~5mm・小礫 ϕ 5~10mm少量含む。

SK-5・6



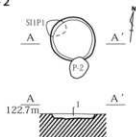
SK-5 土層説明 (A-A'・B-B')

1. 灰黄褐色土 しまり・粘性強い、As-B ϕ 0.5~1mm中量、ロームブロック ϕ 5~10mm少量、As-C ϕ 1~3mm少量含む。

SK-6 土層説明 (C-C')

1. 灰黄褐色土 しまり・粘性強い、As-B ϕ 0.5~1mm多量、As-C ϕ 1~3mm・ロームブロック ϕ 5~10mm中量、炭化粒微量含む。

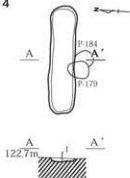
SK-2



SK-2 土層説明 (A-A')

1. 褐色土 しまり・粘性ややあり、As-C ϕ 0.5~1mm中量、炭化粒・SI-1層土ブロック ϕ 10~50mm・ロームブロック ϕ 30mm少量含む。

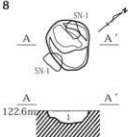
SK-4



SK-4 土層説明 (A-A')

1. 灰黄褐色土 しまり・粘性強い、As-B ϕ 0.5~1mm多量、As-C ϕ 1~3mm・ロームブロック ϕ 5~15mm・小礫 ϕ 5~10mm少量、炭化粒微量含む。

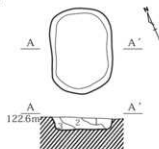
SK-B



SK-B 土層説明 (A-A')

1. 褐色土 しまり・粘性あり、As-C ϕ 1~3mm・黒褐色土ブロック ϕ 5~30mm中量、ロームブロック ϕ 5~15mm少量含む。

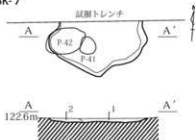
SK-3



SK-3 土層説明 (A-A')

1. 灰黄褐色土 しまり・粘性ややあり、As-C ϕ 1~4mm多量、炭粒 ϕ 5~15mm中量、ロームブロック ϕ 5~10mm少量含む。
2. 褐色土 しまり・粘性ややあり、As-C ϕ 1~4mm多量、ロームブロック ϕ 5~20mm少量、粘土粒・炭化粒微量含む。
3. 褐色土 しまり・粘性ややあり、As-C ϕ 1~4mm中量、ロームブロック ϕ 5~10mm少量、炭化粒微量含む。

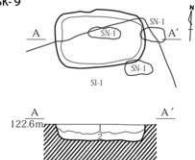
SK-7



SK-7 土層説明 (A-A')

1. 灰黄褐色土 しまりややあり、粘性やや強い、ロームブロック ϕ 5~15mm中量、As-B ϕ 1~2mm少量、粘土粒・炭化粒・As-C ϕ 1~4mm微量含む。
2. 暗褐色土 しまり・粘性やや強い、As-B ϕ 1~2mm・ロームブロック ϕ 5~10mm少量、粘土粒・粘土ブロック ϕ 5~10mm・炭化粒・As-C ϕ 1~3mm少量含む。

SK-9



SK-9 土層説明 (A-A')

1. 灰黄褐色土 しまりあり、粘性強い、As-B ϕ 1~2mm多量、As-C ϕ 1~5mm中量、ロームブロック ϕ 5~30mm少量含む。
2. 褐色土 しまりあり、粘性ややあり、As-B ϕ 1~2mm多量、As-C ϕ 1~5mm・ローム粒中量、ロームブロック ϕ 5~40mm少量含む。

0 1:60 2m

第22図 SK遺構図(1)

SK-10 (第23図)

位置: X=42128・42129, Y=-74818~-74821。重複: S I-4と重複し、先後関係は本遺構の方が新しいと考えられる。南半側が検出され、北側は調査区外に及ぶ。規模: 長軸〈2.10〉m×短軸〈0.99〉m、壁現高0.27mを測る。形態: 平面、断面共に不整形を呈する。遺構埋没状態: A s-B多量、A s-C・ロームブロックを含む灰黄褐色にぶい黄褐色土による人為的な埋め戻しと考えられる。出土遺物: なし。時期: 埋没土の観察から、中世以降と想定される。

SK-11 (第23図)

位置: X=42126・42127, Y=-74835。長軸方位: N-1°-W。検出状態: 南半側が検出され、北側は調査区外に及ぶ。規模: 長軸〈1.00〉m×短軸0.54m、壁現高0.27mを測る。形態: 平面は不整形で、断面は逆台形基調である。遺構埋没状態: A s-B多量、A s-C・ロームブロックを含む暗褐色土による人為的な埋め戻しと考えられる。出土遺物: なし。時期: 埋没土の観察から、中世以降と想定される。

SK-12 (第23図)

位置: X=42122~42124, Y=-74834・-74835。長軸方位: N-3°-W。重複: SK-13・16と重複し、先後関係はSK-13→SK-12→SK-16と考えられる。南側は調査区外に及ぶ。規模: 長軸〈1.97〉m×短軸0.49m、壁現高0.28mを測る。形態: 平面は溝状に細長い不整形で、断面は台形を呈する。遺構埋没状態: A s-B多量、A s-C・ロームブロックを含む灰黄褐色土による人為的な埋め戻しと考えられる。出土遺物: なし。時期: 埋没土の観察から、古代以降と想定される。備考: SK-13・16との相関関係が想起される。

SK-13 (第23図)

位置: X=42123~42125, Y=-74835。長軸方位: N-4°-W。重複: SK-12・16と重複し、先後関係はSK-13→SK-12→SK-16と考えられる。規模: 長軸〈2.09〉m×短軸0.61m、壁現高0.11mを測る。形態: 平面は溝状に細長い不整形で、断面は弧状を呈する。遺構埋没状態: A s-C・A s-B・ロームブロックを含む灰黄褐色土による人為的な埋め戻しと考えられる。出土遺物: なし。時期: 埋没土の観察から、古代以降と想定される。備考: SK-12・16との相関関係が想起される。

SK-14 (第23・25図、第7表/P.L. 6・13)

位置: X=42126, Y=-74818・-74819。長軸方位: N-2°-W。重複: S I-6、SK-17・20、P-117~119と重複し、先後関係はS I-6→SK-20→SK-17→SK-14、P-117~119と考えられる。規模: 長軸0.93m×短軸0.69m、壁現高0.11mを測る。形態: 平面は隅丸長方形で、断面は逆台形基調である。遺構埋没状態: A s-C・A s-B・ロームブロックを含む灰黄褐色土による人為的な埋め戻しと考えられる。出土遺物: 土器(かわかけ)。時期: 埋没土の観察から、中世以降と想定される。

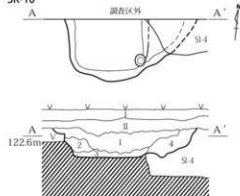
SK-15 (第23図)

位置: X=42126・42127, Y=-74819・-74820。重複: S I-6、SK-20と重複し、先後関係はS I-6→SK-20→SK-15と考えられる。規模: 長軸0.81m×短軸0.78m、壁現高0.29mを測る。形態: 平面は不整形円形で、断面は逆台形基調である。遺構埋没状態: A s-C・A s-B・ロームブロックを含む褐色土による人為的な埋め戻しと考えられる。1層には灰・焼土ブロック・炭化粒の混入が見られる。出土遺物: 土師器(坏・甕) 時期: 埋没土の観察から、中世以降と想定される。

SK-16 (第23図、P.L. 6)

位置: X=42122・42123, Y=-74835。重複: SK-12・13と重複し、先後関係はSK-13→SK-12→SK-16と考えられる。南側は調査区外に及ぶ。規模: 長軸〈0.93〉m×短軸0.55m、壁現高0.53mを測る。形態: 平面は溝状に細長い不整形で、断面は逆台形を呈する。遺構埋没状態: A s-Y P・A s-B・ロームブロックを含む灰黄褐色~暗褐色土による人為的な埋め戻しと考えられる。出土遺物: なし。時期: 埋没土の観察から、中世以降と想定される。備考: SK-12・13との相関関係が想起される。

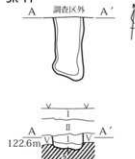
SK-10



SK-10 土層説明 (A-A')

1. 灰黄褐色土 しまりややあり、粘性強い、As-Bø1~2mm多量、As-Cø1~5mm・ロームブロックø5~20mm中量、炭化土・炭土粒少量、暗褐色土ブロックø5~30mm散在含む。
2. にぶい黄褐色土 しまりややあり、粘性やや弱い、As-Bø1mm・ロームブロックø5~10mm中量、As-Cø1~3mm少量含む。
3. にぶい黄褐色土 しまりややあり、粘性やや弱い、As-Bø1mm・ロームブロックø5~20mm中量、As-Cø1~3mm少量含む。

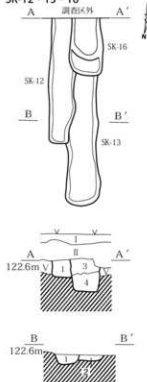
SK-11



SK-11 土層説明 (A-A')

1. 暗褐色土 しまり・粘性強い、As-Bø1mm多量、As-Cø1~3mm・ロームブロックø5~10mm少量含む。
2. 暗褐色土 しまり・粘性強い、As-Bø1mm・ロームブロックø5~20mm中量、炭化粒少量含む。
3. にぶい黄褐色土 しまりややあり、粘性やや弱い、As-Bø1mm・ロームブロックø5~20mm多量、As-Cø1~5mm中量、焼土粒・炭化物・暗褐色土ブロックø5~20mm少量含む。
4. にぶい黄褐色土 しまりややあり、粘性やや弱い、As-Bø1mm・ロームブロックø5~20mm多量、As-Cø1~5mm中量、焼土粒・炭化物・暗褐色土ブロックø5~20mm少量含む。

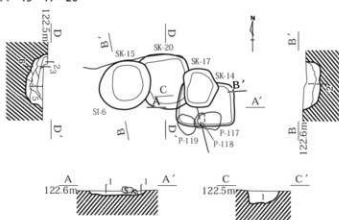
SK-12・13・16



SK-12・13・16 土層説明 (A-A'・B-B')

1. 灰黄褐色土 しまり・粘性強い、As-Bø1mm多量、ロームブロックø5~40mm中量、As-Cø1~3mm少量含む。
2. 灰黄褐色土 しまりやや弱い、粘性強い、As-Bø1mm・As-Cø1~4mm中量、ロームブロックø5~15mm少量含む。
3. 灰黄褐色土 しまり・粘性やや弱い、As-Bø1mm・As-YPø1~3mm・ロームブロックø5~10mm中量、炭化物少量含む。
4. 暗褐色土 しまり・粘性ややあり、As-YPø1~3mm・ロームブロックø5~60mm多量、As-Bø1mm中量含む。

SK-14・15・17・20



SK-14 土層説明 (A-A')

1. 灰黄褐色土 しまり・粘性やや弱い、As-Bø1mm・As-Cø1~4mm中量、ロームブロックø5~10mm少量、焼土粒散在含む。

SK-15 土層説明 (B-B')

1. 暗褐色土 しまり・粘性ややあり、炭化粒・灰・As-Bø1mm・As-Cø1~4mm中量、焼土ブロックø5~10mm・ロームブロックø5~10mm少量、焼土粒散在含む。
2. 暗褐色土 しまり・粘性ややあり、As-Cø1~3mm・ロームブロックø5~20mm中量、As-Bø1mm少量含む。

SK-17 土層説明 (C-C')

1. 暗褐色土 しまりやや弱い、粘性ややあり、As-Bø1mm・ロームブロックø5~40mm中量、焼土粒散在含む。

SK-20 土層説明 (D-D')

1. 暗褐色土 しまりやや弱い、粘性ややあり、A

sBø1mm・As-Cø1~4mm中量、焼土粒少量、ロームブロックø5~10mm散在含む。

SK-14 土層説明 (A-A')

2. にぶい黄褐色土 しまり・粘性ややあり、ロームブロックø5~10mm中量、As-Cø1~3mm少量、焼土粒散在含む。

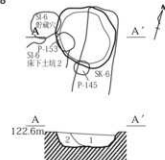
SK-15 土層説明 (B-B')

3. 暗褐色土 しまり・粘性ややあり、炭化粒・灰・As-Bø1mm・As-Cø1~4mm・ロームブロックø5mm少量含む。
4. にぶい黄褐色土 しまり・粘性ややあり、焼土粒・焼土ブロックø5~10mm・ロームブロックø5~40mm中量、炭化粒・灰少量含む。

SK-17 土層説明 (C-C')

5. にぶい黄褐色土 しまりやや弱い、粘性ややあり、焼土粒・炭化粒・As-Bø1mm・As-Cø1~3mm・ロームブロックø5mm少量含む。
6. にぶい黄褐色土 しまりやや弱い、粘性ややあり、ロームブロックø5~20mm中量、焼土粒・As-Bø1mm・As-Cø1~3mm少量含む。
7. にぶい黄褐色土 しまり・粘性ややあり、ロームブロックø5~20mm多量、As-YPø5~10mm中量含む。

SK-18



SK-18 土層説明 (A-A')

1. 暗褐色土 しまりややあり、粘性やや弱い、As-Bø1mm多量、As-Cø1~3mm・ロームブロックø5~15mm中量、焼土粒・炭化粒散在含む。
2. 暗褐色土 しまり・粘性ややあり、As-Bø1mm多量、As-Cø1~3mm・ロームブロックø5~15mm中量、焼土粒・炭化粒散在含む。

0 1:60 2m

第23図 SK遺構図(2)

SK-17 (第23図/P.L. 6)

位置: X=42126, Y=-74818・-74819。長軸方位: N-5°-W。重複: SI-6、SK-14・20と重複し、先後関係はSI-6→SK-20→SK-17→SK-14と考えられる。規模: 長軸0.61m×短軸0.56m、壁現高0.30mを測る。形態: 平面、断面共に不整形を呈する。遺構埋没状態: As-B・ロームブロックを含む褐灰色土による人為的な埋め戻しと考えられる。出土遺物: なし。時期: 埋没土の観察から、中世以降と想定される。

SK-18 (第23・25図、第8表/P.L. 6・13)

位置: X=42125・42126, Y=-74820・-74821。長軸方位: N-32°-W。重複: SI-6、SK-6、P-145・153と重複し、先後関係はSI-6→P-145・153→SK-18と考えられる。規模: 長軸0.96m×短軸0.94m、壁現高0.29mを測る。形態: 平面は不整形で、断面は逆台形を呈する。遺構埋没状態: As-B多量、As-C・ロームブロックを含む褐灰色土による人為的な埋め戻しと考えられる。出土遺物: 土師器(杯・甕)、土器(かわらけ)。時期: 埋没土の観察から、中世以降と想定される。

SK-19 (第24図)

位置: X=42127・42128, Y=-74821・-74822。規模: 長軸0.77m×短軸0.71m、壁現高0.18mを測る。形態: 平面、断面共に不整形を呈する。底面は起伏が著しい。遺構埋没状態: As-B多量、As-C・ロームブロックを含む灰黄褐色土による自然埋没と考えられる。出土遺物: なし。時期: 埋没土の観察から、中世以降と想定される。

SK-20 (第23図)

位置: X=42126・42127, Y=-74819。長軸方位: N-13°-W。重複: SI-6、SK-14・15・17と重複し、先後関係はSI-6→SK-20→SK-14・15・17と考えられる。規模: 長軸0.88m×短軸<0.79>m、壁現高0.44mを測る。形態: 平面は楕円形基調で、断面はU字形を呈する。遺構埋没状態: As-C・As-B・ロームブロックを含む褐灰~にぶい黄褐色土による人為的な埋め戻しと考えられる。中層に焼土粒・焼土ブロック・ロームブロックの混入が見られる。出土遺物: 土師器(甕)。時期: 埋没土の観察から、中世以降と想定される。

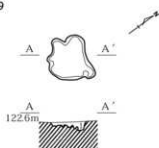
SK-21 (第24図/P.L. 6)

位置: X=42125・42126, Y=-74821・-74822。長軸方位: N-3°-W。重複: SI-6、P-7・22・87・174・182と重複し、先後関係はSI-6→SK-21→P-7・22・87・174・182と考えられる。規模: 長軸1.14m×短軸0.65m、壁現高0.11mを測る。形態: 平面は不整形で、断面は逆台形基調である。遺構埋没状態: As-YP・ロームブロックを含む灰黄褐色土による人為的な埋め戻しと考えられる。出土遺物: なし。時期: 埋没土の観察から、古代以降と想定される。

SK-22 (第24図/P.L. 6)

位置: X=42123・42124, Y=-74821・-74822。長軸方位: N-31°-E。重複: SI-6、P-138・169・181と重複し、先後関係はSI-6→SK-22→P-138・169・181と考えられる。南側は調査区外に及ぶ。規模: 長軸<1.34>m×短軸<1.25>m、壁現高0.11mを測る。形態: 平面は不整形で、断面は逆台形基調である。遺構埋没状態: As-C・ロームブロックを多く含むにぶい黄褐色土による自然埋没と考えられる。出土遺物: なし。時期: 埋没土の観察から、古代以降と想定される。

SK-19



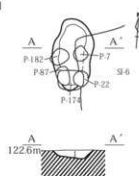
SK-19 土層説明 (A-A')

1. 灰黄褐色土 しまり・粘性ややあり、As-B ϕ 1 m多量、As-C ϕ 1 \sim 3 m・ロームブロック ϕ 5 \sim 15 mm少量含む。

SK-21 土層説明 (A-A')

1. 灰黄褐色土 しまり・粘性ややあり、As-C ϕ 1 \sim 3 m中量、焼土粒少量含む。

SK-21



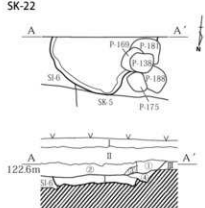
SK-22 土層説明 (A-A'・B-B')

1. に近い黄褐色土 しまり・粘性あり、As-C ϕ 1 \sim 5 m多量、ローム粒・ロームブロック ϕ 5 \sim 10 mm中量、焼土ブロック ϕ 5 \sim 10 mm少量、炭化物微量含む。

①. 灰黄褐色土 しまり・粘性弱い。

- ②. 暗褐色土 しまりややあり、粘性やや弱い、As-C ϕ 1 \sim 5 m多量、As-B ϕ 1 m中量、ロームブロック ϕ 5 \sim 30 mm少量、焼土粒・炭化物微量含む。

SK-22



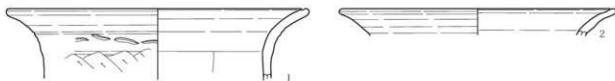
- ③. 暗褐色土 しまり・粘性やや弱い、As-B ϕ 1 m・As-C ϕ 1 \sim 5 m・ロームブロック ϕ 5 \sim 10 mm少量含む。

- ④. 暗褐色土 しまり・粘性あり、As-C ϕ 1 \sim 10 m多量、ロームブロック ϕ 5 \sim 10 mm少量含む。



第24図 SK遺構(3)

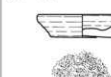
SK-3



SK-6



SK-14



SK-18



第25図 SK遺物実測図

第7表 SK遺物観察表(1)

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考
SK 3 1	土師器 甕	口径:(23.6) 底径:— 器高:(5.6)	口縁部~側 部上位破片	外面:橙 内面:橙	赤褐色粒・ 白色粒・石 英・輝石	焼化焼	外面:口縁部ヨコナデ、側部ケズリ。 内面:口縁部ヨコナデ、側部ヘラナデ。	
SK 3 2	土師器 甕	口径:(21.4) 底径:— 器高:(2.1)	口縁部 1/6	外面:橙 内面:橙	赤褐色粒・ 白色粒・石 英・輝石	焼化焼	外面:口縁部ヨコナデ。 内面:口縁部ヨコナデ。	
SK 6 1	土器 かわらけ	口径:— 底径:(5.0) 器高:(1.2)	体部下位~ 底部 1/4	外面:にぶい黄 橙 内面:にぶ い黄橙	褐色粒・白 色粒	焼化焼	外面:体部回転子デ、底部回転系切り。 内面:体部~底部回転子デ。	
SK14 1	土器 かわらけ	口径:(7.0) 底径:5.0 器高:1.8	1/2	外面:にぶい黄 内面:にぶい黄	白色粒	焼化焼	外面:口縁部~体部回転子デ、底部回転系切り。 内面:口縁部~底部回転子デ。	

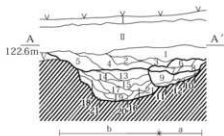
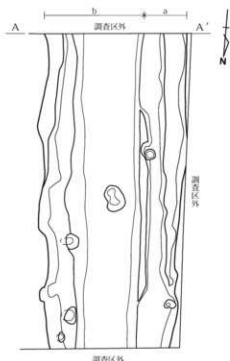
第8表 SK遺物観察表(2)

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	装成	成形の特徴	備考
SK18 1	土器 かわらけ	口径:(10.8) 底径:(6.8) 器高:3.0	口縁部~ 底部1/6	外面:にぶい黄 褐色 内面:にぶ い黄褐色	黒色粒・白 色粒	簡化型	外面:口縁部~体部回転子午、底部回転系切り。 内面:口縁部~底部回転子午。	
SK18 2	土器 かわらけ	口径:~ 底径:(5.8) 器高:(1.2)	体部下位~ 底部1/5	外面:にぶい黄 褐色 内面:にぶ い黄褐色	褐色粒・白 色粒	簡化型	外面:体部回転子午、底部回転系切り。 内面:体部~底部回転子午。	

5. 溝

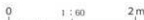
SD-1 (第26・27図、第9表/P.L. 6~8・13)

位置: X=42122~42127, Y=-74835~-74838に位置する。主軸方向: N-4°-W。規模・形状: 検出範囲の全長は5.00m。本遺構は埋没土の堆積状況から大きく2期に分かれると考えられたため、便宜上、西側をSD-1a、東側をSD-1bとした。規模は、上端幅a:0.67~0.92m, b:1.35~1.63m、下端幅a:0.37~0.66m, b:0.68~0.87m。断面形はa:やや歪な逆台形で、西から東へ傾斜する。深さは0.47mを測る。b:逆台形基調で、東側に段を持つ。深さは0.67~0.81mを測る。底面の標高はa:北121.975~南122.920mで、その比高差は約0.94m。b:北121.628~南121.708mで、その比高差は約0.08m。北一南方向に概ね直線的に走行し、両端部は調査区外に及ぶ。遺構埋没状態: aはAs-Y-P・As-Bを含む灰褐色~にぶい黄褐色土で埋没する。bは上下2層に大別でき、上層はAs-Y-P・As-Cを含む灰褐色~暗褐色土による自然埋没と考えられる。下層はAs-Y-P・As-C・ロームブロックを含むにぶい黄褐色土による自然埋没と考えられる。出土遺物: なし。時期: 埋没土の観察から、aは中世以降、bは古墳時代以降と想定される。備考:



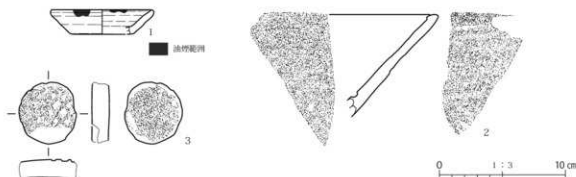
SD-1 土層説明 (A-A')

1. にぶい黄褐色土 しまり・粘性やや強い, As-B ϕ 1m・As-C ϕ 1~5m中層, 褐色土ブロック ϕ 5~30mm少量含む。
2. 灰黄褐色土 しまり・粘性やや強い, As-B ϕ 1m中層, As-C ϕ 1~3m少量含む。
3. 灰黄褐色土 しまり・粘性やや強い, As-B ϕ 1m中層, As-C ϕ 1~3m・黄褐色土ブロック ϕ 5~10mm少量含む。
4. 灰黄褐色土 しまり・粘性強い, As-B ϕ 1m多層, As-C ϕ 1~5m中層, 粘土粒微量含む。
5. 灰黄褐色土 しまり・粘性やや強い, As-B ϕ 1m中層, As-C ϕ 1~5m・ロームブロック ϕ 5mm少量, 粘土粒微量含む。
6. にぶい黄褐色土 しまりやや強い・粘性あり, As-B ϕ 1m・As-C ϕ 1~3m少量, 粘土粒微量含む。
7. にぶい黄褐色土 しまり・粘性ややあり, As-B ϕ 1m・褐色土ブロック ϕ 5~20mm少量含む。
8. にぶい黄褐色土 しまり・粘性やや強い, As-B ϕ 1m・As-YP ϕ 1~3mm中層含む。
9. 灰褐色土 しまり・粘性あり, As-B ϕ 1m・As-C ϕ 1~3m少量含む。
10. 灰黄褐色土 しまり・粘性やや強い, As-YP ϕ 1~3mm中層, As-B ϕ 1m少量含む。
11. 灰黄褐色土 しまり・粘性あり, As-B ϕ 1m・As-YP ϕ 1~3mm少量含む。
12. にぶい黄褐色土 しまりややあり・粘性強い, As-YP ϕ 1~8mm少量含む。
13. 暗褐色土 しまり・粘性あり, As-C ϕ 1~5mm中層含む。
14. 灰褐色土 しまり・粘性ややあり, As-C ϕ 1~3mm少量含む。
15. 暗褐色土 しまり・粘性ややあり, As-C ϕ 1~3mm中層, ロームブロック ϕ 5~10mm少量, As-YP ϕ 1~3mm微量含む。
16. 暗褐色土 しまり・粘性ややあり, As-YP ϕ 1~3mm中層, As-C ϕ 1~2mm少量含む。
17. 暗褐色土 しまり・粘性あり, As-C ϕ 1~3m・As-YP ϕ 1~3mm中層, ロームブロック ϕ 5mm・炭化物少量含む。
18. にぶい黄褐色土 しまりやや強い・粘性あり, As-YP ϕ 1~3mm中層, As-C ϕ 1~3m・ロームブロック ϕ 5mm少量, 炭化物微量含む。
19. にぶい黄褐色土 しまり・粘性ややあり, As-YP ϕ 1~3m・ロームブロック ϕ 5~10mm中層, As-C ϕ 1~3mm少量含む。
20. にぶい黄褐色土 しまり・粘性あり, As-YP ϕ 1~3m・ロームブロック ϕ 5~10mm中層含む。
21. にぶい黄褐色土 しまり・粘性やや強い, As-YP ϕ 1~5mm多層含む, 炭分洗殻。



第26図 SD-1遺構図

本遺構は水流の痕跡が認められないことから区画溝と考えられ、調査時においても地境にあたる。少なくとも2期以上の掘り返しが行われているものと考えられる。



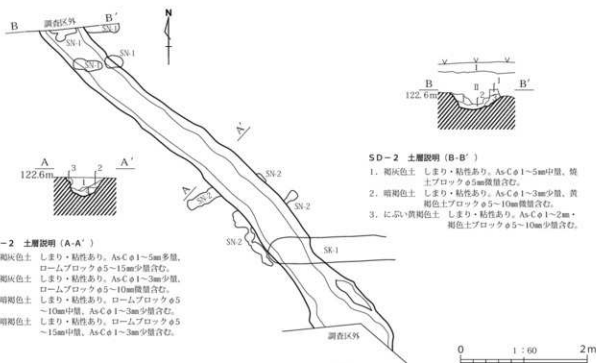
第27図 SD-1遺物実測図

第9表 SD-1遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成整形の特徴	備考
1	土器 かわらけ	口径：(8.0) 底径：(5.0) 器高：1.9	口縁部～ 底部1/4	外面：暗赤期 内面：暗赤期	白色粒・石 莖	焼成地	外面：口縁部～体部8粒ナデ。底部8粒系切り。 内面：口縁部～底部8粒ナデ。	口縁部に漆料 付着。御明道 に転用否。
2	陶器 磁鉢	口径：— 底径：— 器高：—	口縁部～ 体部破片	外面：灰 内面：灰オリー ブ	白色粒	還元地	外面：口縁部8粒ナデ。体部ナデ。 内面：口縁部～体部8粒ナデ→体部8粒目。	在地産。
重さ/石材/成整形の特徴等								
3	土製品 土製円盤	長さ：4.9 幅：4.5 厚さ：1.5	ほぼ正円	重さ：40.29g。平瓦片の周縁を打ち欠いて円形状に加工。凹面：布目瓦縁→ナデ。凸面：叩き→型押 じ文（斜格子文）。				

SD-2 (第28・29図、第10表/PL. 7・8・13)

位置：X=42124～42129、Y=-74807～-74812に位置する。主軸方向：N-45°-W。重複：SK-1、SN-1・2と重複し、先後関係はSN-2→SD-2→SK-1、SN-1と考えられる。規模・形状：



第28図 SD-2遺構図

検出範囲の全長は7.26m。上端幅0.47～0.94m、下端幅0.28～0.51m、深さ0.28～0.51mを測る。底面の標高は北端122.289m、南端122.201mである。北西～南東方向にやや蛇行して走行し、両端部は調査区外に及ぶ。断面形はやや歪んだ逆台形～U字状を呈する。**遺構埋没状態**：A s - C・ロームブロックを含む褐灰～暗褐色土による自然埋没と考えられる。**出土遺物**：埋没土中から少量出土した。土師器（甕・坏）、須恵器（坏）、縄文土器（深鉢）。**時期**：埋没土の観察から、古墳時代以降と想定される。



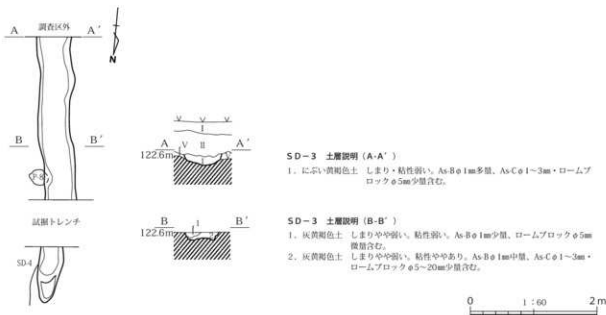
第29図 SD-2遺物実測図

第10表 SD-2遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	残存	色調	胎土	焼成	成形の特徴	備考
1	須恵器 坏	口径：— 底径：(7.0) 胎高：(1.4)	体部下位～ 底部 1/3	外面：灰 内面：灰	褐色粒・白 色粒	焼化焼	外面：体部回転ナズ、底部回転角切り。 内面：体部～底部回転ナズ。	

SD-3 (第30図/PL. 8)

位置：X=42122～42127、Y=-74833～-74834に位置する。**主軸方向**：N-4°-W。**重複**：P-8と重複し、先後関係は本遺構が古いと考えられる。**規模・形状**：検出範囲の全長は4.20m。上端幅0.35～0.55m、下端幅0.22～0.44m、深さ0.17mを測る。底面の標高は南端122.377mで、北端は遺構確認面に立ち上がる。北～南方向にやや蛇行して走行する。断面形は逆台形基調で、底面はやや起伏がある。**遺構埋没状態**：A s - B多量、A s - C・ロームブロックを含む灰黄褐～にぶい黄褐色土による自然埋没と考えられる。**出土遺物**：なし。**時期**：埋没土の観察から、中世以降と想定される。**備考**：SD-4との相関性が想起される。

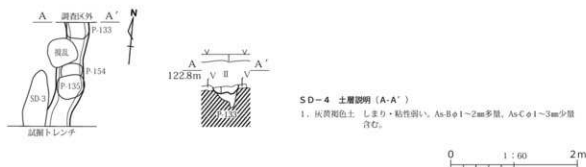


第30図 SD-3遺構図

SD-4 (第31図/PL. 8)

位置：X=42126・42127、Y=-74833に位置する。**主軸方向**：N-5°-E。**重複**：P-133・135・154と重複し、先後関係は本遺構が新しいと考えられる。**規模・形状**：検出範囲の全長は1.68m。上端幅0.35～0.44m、下端幅0.22～0.37m、深さ0.11mを測る。底面の標高は北端122.465m、南端122.418mである。北

一南方向に蛇行しつつ走行する。断面形は楕円基調で、底面はやや起伏がある。遺構埋没状態：A s-B 多量、A s-C を含む灰黄褐色土による自然埋没と考えられる。出土遺物：なし。時期：埋没土の観察から、中世以降と想定される。備考：SD-3 との相関性が推測される。



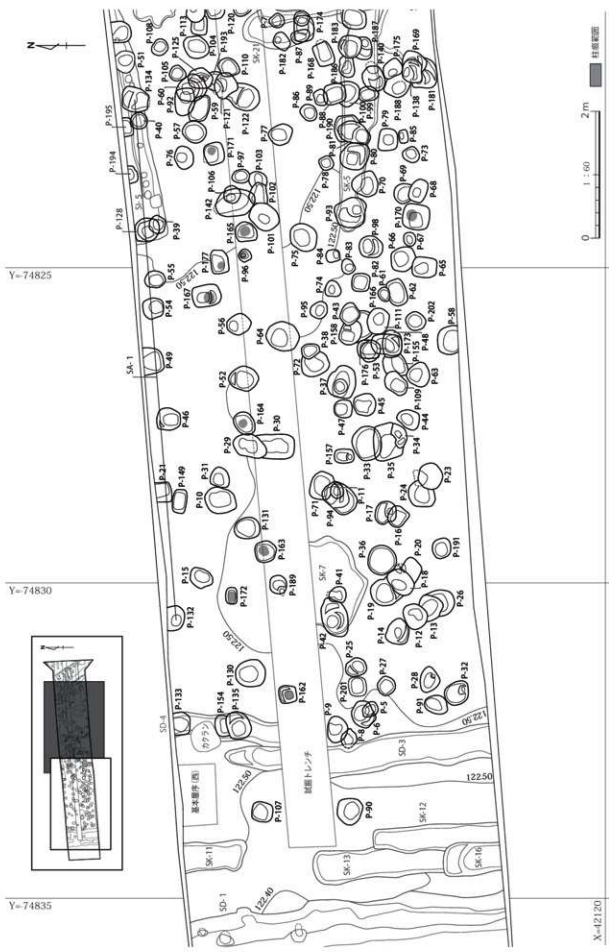
第31図 SD-4遺構図

6. ビット (第32~34図・第11~17表/PL. 9・13)

ビットは204基が確認されている。分布はS1-1から調査区西半側の微高地を占地している傾向がみられる。遺構確認時や断面観察の際に、柱痕が残るビットも認められたことから建物跡等が存在した可能性が考えられる。構築時期は遺構の重複関係や埋没土の観察などから、中世以降が中心と考えられる。各遺構の計測値については、ビット一覧表に提示した。

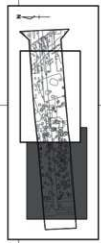
第11表 ビット一覧表(1)

遺構名	位置	平面形態	規模 (cm)			備考/遺物	遺構名	位置	平面形態	規模 (cm)			備考/遺物
			長軸	短軸	深さ					長軸	短軸	深さ	
P-1	X=42125・42126 Y=74816・74817	不整形	47	43	8	S11と重視。	P-14	X=42124 Y=74831	不整形	41	36	36	P12と重視。 土師器。
							P-15	Y=74830・74831					
P-2	X=42125 Y=74815・74816	不整形楕円形	34	28	14	S11、SK2と重視。 埋没土にAs-Bを含む。	P-16	X=42124 Y=74829・74830	不整形	32	30	17	P17と重視。埋没土にAs-Bを含む。
P-3	X=42124 Y=74815	円形	31	30	12	S11と重視。埋没土にAs-Bを含む。石臼(上白)。	P-17	X=42124 Y=74829・74830					
P-4	X=42124 Y=74816・74817	不整形	31	23	30	S11と重視。	P-18	X=42124 Y=74830・74831	楕円形	46	34	55	P19・20・36と重視。
P-5	X=42124 Y=74832・74833						不整形楕円形	27					
P-6	X=42125 Y=74832・74833	不整形楕円形	44	35	39	P5と重視。	P-20	X=42123・42124 Y=74830	不整形	33	32	64	P18・36と重視。
P-7	X=42126 Y=74821・74822						不整形円形	22					
P-8	X=42124 Y=74833	不整形	<26>	25	16	SD3、P9と重視。	P-22	X=42125 Y=74821・74822	円形	25	24	15	S16、SK21、P174と重視。埋没土にAs-Bを含む。
P-9	X=42125 Y=74833						楕円形	42					
P-10	X=42126 Y=74829	不整形	50	42	46		P-24	X=42123・42124 Y=74829	不整形円形	<44>	<41>	35	P23と重視。土師器(杯)。
P-11	X=42125 Y=74829						円形	25					
P-12	X=42123・42124 Y=74831	不整形円形	41	37	55	P13・14と重視。	P-26	X=42123・42124 Y=74831	不整形楕円形	<44>	<42>	37	P13と重視。
P-13	X=42123 Y=74831						不整形	42					



第32図 ビット位置図(1)

X=42130



N



Y=74810

Y=74815

Y=74820



社団法人

第33図 ビット位置図(2)

第12表 ビット一覧表(2)

遺構名	位置	平面形態	規模 (cm)			備考/遺物	遺構名	位置	平面形態	規模 (cm)			備考/遺物
			長軸	短軸	深さ					長軸	短軸	深さ	
P-28	X=42123 Y=74832	不整形	41	31	31	埋設上にAs-Bを含む。	P-57	X=42127 Y=74823	不整形	38	35	28	P59と重複。
P-29	X=42126 Y=74828	不整形	56	37	56	P30・164と重複。	P-58	X=42123 Y=74826	円形	<46>	<33>	25	土師器(杯)。
P-30	X=42125 Y=74828	楕円形	<63>	<39>	57	P29と重複。	P-59	X=42127 Y=74823	不整形	46	31	13	P57・60・92と重複。
P-31	X=42126 Y=74829	不整形	32	30	41		P-60	X=42127 Y=74822	不整形	48	43	19	P59・92・105・125と重複。埋設上にAs-Bを含む。
P-32	X=42123 Y=74832	不整形	41	36	19		P-61	X=42124 Y=74826	不整形	23	19	15	P62と重複。
P-33	X=42124 Y=74828	不整形	55	47	24	P35と重複。埋設上にAs-Bを含む。土師器(甕・杯)。	P-62	X=42124 Y=74826	長方形	42	<30>	27	P61と重複。
P-34	X=42124 Y=74828	不整形	40	24	59	P35と重複。埋設上にAs-Bを含む。	P-63	X=42123 Y=74827	不整形	39	36	48	P155と重複。
P-35	X=42124 Y=74828	不整形	<61>	<48>	48	P33・34と重複。土師器(甕)。	P-64	X=42125 Y=74826	円形	52	45	64	陶器(古瀬戸鉄軸)。
P-36	X=42124 Y=74830	円形	47	45	11	P18・20と重複。埋設上にAs-Bを含む。	P-65	X=42123 Y=74825	方形	39	33	68	P66と重複。
P-37	X=42124 Y=74827	不整形	52	45	68		P-66	X=42124 Y=74826	不整形	<39>	<39>	40	P65と重複。埋設上にAs-Bを含む。
P-38	X=42125 Y=74827	不整形楕円形	29	24	8	P72と重複。埋設上にAs-Bを含む。	P-67	X=42124 Y=74825	円形	22	19	14	
P-39	X=42127 Y=74825	不整形	29	26	14	S15、P128と重複。埋設上にAs-Bを含む。	P-68	X=42124 Y=74824	長方形	37	27	54	P69と重複。埋設上にAs-Bを含む。
P-40	X=42128 Y=74823	円形	27	26	7	S15、P134・195と重複。埋設上にAs-Bを含む。	P-69	X=42124 Y=74824	不整形	32	<28>	18	P68と重複。
P-41	X=42125 Y=74831	不整形	27	25	39	SK7、P42と重複。	P-70	X=42124 Y=74824	不整形	42	41	54	SK5と重複。埋設上にAs-Bを含む。土師器(甕)。
P-42	X=42125 Y=74831	不整形楕円形	65	41	58	SK7、P41と重複。	P-71	X=42125 Y=74829	楕円形	45	<36>	48	P11・94と重複。埋設上にAs-Bを含む。
P-43	X=42124 Y=74826	不整形	32	30	14	P158・166と重複。埋設上にAs-Bを含む。	P-72	X=42125 Y=74827	楕円形	45	<36>	21	P38と重複。
P-44	X=42123 Y=74828	不整形	37	30	31	埋設上にAs-Bを含む。土師器(杯)。	P-73	X=42123 Y=74824	不整形	28	25	9	
P-45	X=42124 Y=74827	不整形	35	35	22	埋設上にAs-Bを含む。	P-74	X=42125 Y=74826	不整形	25	25	21	埋設上にAs-Bを含む。
P-46	X=42127 Y=74828	不整形	38	35	52	土師器(杯)、かわらけ。	P-75	X=42126 Y=74825	不整形	44	43	32	埋設上にAs-Bを含む。
P-47	X=42125 Y=74828	円形	29	29	31		P-76	X=42127 Y=74824	楕円形	37	30	52	
P-48	X=42124 Y=74826	楕円形	44	31	36	P111・155・173と重複。埋設上にAs-Bを含む。須恵器(甕)。	P-77	X=42125 Y=74823	不整形	39	31	33	かわらけ。
P-49	X=42128 Y=74827	楕円形	<44>	<34>	55	SA1。土師器。	P-78	X=42125 Y=74824	方形	22	22	15	
P-50	X=42128 Y=74822	楕円形	<34>	<33>	41	S15と重複。	P-79	X=42124 Y=74823	方形	35	31	46	
P-51	X=42128 Y=74822	不整形	35	<31>	51	S15と重複。	P-80	X=42124 Y=74826	不整形	45	44	44	SK5、P81と重複。埋設上にAs-Bを含む。
P-52	X=42126 Y=74827	不整形	48	40	35		P-81	X=42124 Y=74823	不整形楕円形	54	34	35	SK5、P80・190と重複。埋設上にAs-Bを含む。
P-53	X=42124 Y=74827	円形	35	30	11	P173・176と重複。埋設上にAs-Bを含む。土師器(甕)。	P-82	X=42124 Y=74826	方形	29	29	17	埋設上にAs-Bを含む。
P-54	X=42128 Y=74826	不整形	34	33	46	埋設上にAs-Bを含む。	P-83	X=42124 Y=74825	不整形	25	22	21	埋設上にAs-Bを含む。
P-55	X=42127 Y=74826	楕円形	33	27	28	埋設上にAs-Bを含む。	P-84	X=42125 Y=74825	方形	22	20	23	埋設上にAs-Bを含む。
P-56	X=42126 Y=74827	不整形	39	34	68	埋設上にAs-Bを含む。土師器(杯)、かわらけ。							

第13表 ビット一覧表(3)

遺構名	位置	平面形態	規模 (cm)			備考/遺物	遺構名	位置	平面形態	規模 (cm)			備考/遺物
			長軸	短軸	深さ					長軸	短軸	深さ	
P-85	X=42124 Y=74823	長方形	21	15	30	埋設上にAs-Bを含む。	P-115	X=42124 Y=74818	不整形四角形	27	23	9	P116と重視。埋設上にAs-Bを含む。
	X=42125 Y=74823												
P-87	X=42125 Y=74822	楕円形	31	20	7	SK21, P174と重視。埋設上にAs-Bを含む。	P-117	X=42125・ 42126 Y=74818	不整形	38	28	49	S16, SK14, P118と重視。埋設上にAs-Bを含む。土師器(甕)。
	P-88												
P-89		X=42125 Y=74823	不整形楕円形	26	20	30	P88と重視。埋設上にAs-Bを含む。	P-119	X=42125・ 42126 Y=74818・ 74819	不整形	35	27	12
	P-90	X=42124・ 42125 Y=74834 X=42125 Y=74833											
P-92		X=42127 Y=74823	楕円形	44	31	71	P59・60と重視。埋設上にAs-Bを含む。	P-121	X=42126・ 42127 Y=74822・ 74823	不整形	38	37	70
	P-93	X=42124・ 42125 Y=74824・ 74825											
P-94		X=42124・ 42125 Y=74829	楕円形	57	42	60	P11・71と重視。	P-123	X=42127 Y=74818	不整形楕円形	31	26	17
	P-95	X=42125 Y=74826											
P-96		X=42126 Y=74825	方形	20	19	40	埋設上にAs-Bを含む。	P-125	Y=74822・ 74823	不整形楕円形	39	33	62
	P-97	X=42126 Y=74824											
P-98		X=42124 Y=74825	不整形円形	38	34	28	埋設上にAs-Bを含む。土師器(坏)。	P-127	X=42128 Y=74818	不整形円形	39	36	30
	P-99	X=42124 Y=74823											
P-100		X=42124・ 42125 Y=74823	不整形円形	41	〈33〉	11	SK5, P88・99と重視。埋設上にAs-Bを含む。	P-129	X=42125 Y=74820・ 74821	円形	37	36	70
	P-101	X=42126 Y=74825											
P-102		X=42126 Y=74824	不整形	〈35〉	30	26	P101・103・142と重視。	P-131	X=42126 Y=74829・ 74830	楕円形	41	34	29
	P-103	X=42126 Y=74824											
P-104		X=42127 Y=74822	不整形	40	36	58	埋設上にAs-Bを含む。	P-133	X=42127 Y=74833	方形カ	〈37〉	〈27〉	28
	P-105	X=42127 Y=74823											
P-106		X=42126・ 42127 Y=74824	不整形円形	27	27	63	P142と重視。土師器・鉄貨(元股通宝カ)。	P-135	X=42126・ 42127 Y=74833	楕円形	45	37	64
	P-107	X=42126 Y=74834											
P-108		X=42127・ 42128 Y=74822	不整形円形	27	24	13	埋設上にAs-Bを含む。	P-137	X=42124・ 42125 Y=74814	不整形円形	38	34	45
	P-109	X=42124 Y=74827・ 74828											
P-110		X=42126・ 42127 Y=74822	不整形	32	30	11	P121・193と重視。埋設上にAs-Bを含む。	P-139	X=42126・ 42127 Y=74820・ 74821	楕円形	46	36	62
	P-111	X=42124 Y=74826・ 74827											
P-112		X=42127 Y=74821・ 74822	不整形楕円形	38	30	51	P113・141と重視。埋設上にAs-Bを含む。土師器(坏)。	P-141	X=42127 Y=74821・ 74822	長方形	39	29	14
	P-113	X=42127 Y=74822											
P-114		X=42124・ 42125 Y=74818	不整形	37	26	57	S16, ST1と重視。埋設上にAs-Bを含む。土師器(甕)。						

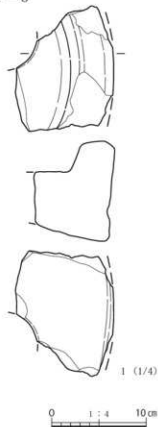
第14表 ビット一覧表(4)

遺構名	位置	平面形態	規模 (cm)			備考/遺物	遺構名	位置	平面形態	規模 (cm)			備考/遺物
			長軸	短軸	深さ					長軸	短軸	深さ	
P-142	X=42126・ 42127 Y=74824・ 74825	楕円形	64	45	63	P101・102・106 と重視。埋設上に As-Bを含む。	P-169	X=42123・ 42124 Y=74822	不整形	39	〈29〉	27	SK22・P138・175 ・181と重視。埋設 上にAs-Bを含む。 土師器(甕)。
	X=42127・ 42128 Y=74821												
X=42127 Y=74819・ 74820	不整形	56	40	38	埋設上にAs-Bを 含む。	P-171	X=42127 Y=74824	方形	34	32	50	埋設上にAs-Bを 含む。柱痕の痕跡あり。	
X=42125 Y=74820													方形
X=42124 Y=74821	長方形	33	26	29	S16と重視。埋設上 にAs-Bを含む。	P-173	X=42124 Y=74827	不整形楕円形	49	34	80	P48・53・111・ 155・176と重視。 埋設上にAs-Bを 含む。	
X=42125 Y=74819													不整形
X=42127 Y=74818	円形	33	29	34	P161と重視。埋設 上にAs-Bを含む。	P-175	X=42124 Y=74822・ 74823	不整形	33	27	72	P138・140・169・ 188と重視。埋設上 にAs-Bを含む。土 師器(甕)。	
X=42127 Y=74829													長方形
X=42127 Y=74819・ 74820	楕円形	26	21	17	埋設上にAs-Bを 含む。かわらけ。	P-177	X=42126・ 42127 Y=74825・ 74826	長方形	38	30	45	埋設上にAs-Bを 含む。柱痕の痕跡あり。	
X=42127 Y=74820													不整形円形
X=42125・ 42126 Y=74820・ 74821	楕円形	30	26	14	S16、SK18と重視。 土師器(甕)。	P-179	X=42125 Y=74817	不整形	34	27	19	SK4、P184と重視。 埋設上にAs-Bを 含む。	
X=42126・ 42127 Y=74833													方形カ
X=42124 Y=74827	—	〈37〉	〈36〉	39	P48・63・109・17 3と重視。埋設上に As-Bを含む。	P-181	X=42123・ 42124 Y=74822・ 74823	不整形	〈49〉	〈40〉	50	SK22・P138・169 と重視。埋設上に As-Bを含む。	
X=42126・ 42127 Y=74811													円形
X=42124・ 42125 Y=74828・ 74829	楕円形	31	23	40	埋設上にAs-Bを 含む。	P-183	X=42124・ 42125 Y=74822	円形	37	36	50	SK5、P186・187 と重視。埋設上に As-Bを含む。土師 器(甕)。	
X=42124・ 42125 Y=74826・ 74827													楕円形
X=42126・ 42127 Y=74812・ 74813	方形	31	27	20	土師器(甕)。	P-185	X=42125 Y=74821	円形カ	〈30〉	30	14	S16、P129と重視。	
X=42126 Y=74820													楕円形
X=42127 Y=74818	長方形	37	〈29〉	63	P148・150と重視。 埋設上にAs-Bを 含む。柱痕の痕跡あり。	P-187	X=42124 Y=74823	楕円形カ	36	〈26〉	48	SK5、P183と重視。 埋設上にAs-Bを 含む。	
X=42125・ 42126 Y=74832													方形
X=42126 Y=74830	不整形円形	34	34	12	埋設上にAs-Bを 含む。柱痕の痕跡あり P29と重視。埋設上 にAs-Bを含む。土師 器(甕)・陶器(天 目茶碗)。	P-189	X=42126 Y=74830・ 74831	円形	29	26	36		
X=42126 Y=74828													楕円形
X=42126 Y=74825	不整形	35	31	38	柱痕の痕跡あり。	P-191	X=42123 Y=74830	円形	33	29	23	埋設上にAs-Bを 含む。	
X=42124 Y=74826・ 74827													—
X=42127 Y=74826	長方形	47	36	72	埋設上にAs-Bを 含む。柱痕の痕跡あり。 土師器。	P-193	X=42127 Y=74822・ 74823	—	〈31〉	〈18〉	26	P110・121・125 と重視。埋設上 にAs-Bを含む。	
X=42125 Y=74822													長方形
	長方形	38	29	41	土師器(甕)。	P-195	X=42128 Y=74823	方形カ	〈30〉	〈16〉	25	埋設上にAs-Bを 含む。	

第15表 ビット一覧表(5)

遺構名	位置	平面形態	規模(cm)			備考/遺物	遺構名	位置	平面形態	規模(cm)			備考/遺物
			長軸	短軸	深さ					長軸	短軸	深さ	
P.196	X=42124・ 42125 Y=74821・ 74822	長方形	38	35	16	S16、SK5と重複。	P.201	X=42124・ 42125 Y=74832	方形	31	29	16	
P.198	X=42127 42124 Y=74806	—	<40>	<28>	30	P.203	X=42127・ 42128 Y=74820	不整形	35	25	25		
													P.199
P.200	X=42124 Y=74812	方形	22	20	6								

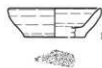
P-3



P-48



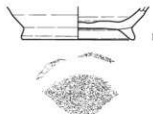
P-56



P-77



P-111



P-106



P-164



第34図 ビット遺物実測図

第16表 ビット遺物観察表(1)

No.	器種	法量(cm)	残存	重さ/石材/成形の特徴等				備考
P.3 1	石臼 石臼	長さ：13.25 幅：(10.5) 厚さ：10.6	破片	重さ：1303.24g.	砂質、粗割り一型ケズリ。	上・側面は雑な研削。下面の割り目は磨滅。		
No.	器種	法量(cm)	残存	色調	胎土	焼成	成形の特徴	
P.48 1	須恵器 甕	口径：— 底径：— 器高：—	胴部破片	外面：灰 内面：灰	白色粒・黒色粒	還元焼	外面：即志(平白明き目)→ナナデ。 内面：当て具痕(青海波文)。	
P.56 1	土器 かわらけ	口径：(7.2) 底径：(4.8) 器高：2.3	口縁部～ 底部 1/4	外面：に深い黄 褐色 内面：にふ い黄褐色	褐色色粒・白 色粒	酸化焼	外面：口縁部～体部回転ナナデ。底部回転糸切り。 内面：口縁部～底部回転ナナデ。	
P.77 1	土器 かわらけ	口径：— 底径：6.4 器高：(1.7)	体部下位～ 底部 1/2	外面：に深い黄 褐色 内面：にふ い黄褐色	白色粒	酸化焼	外面：体部回転ナナデ。底部回転糸切り。 内面：体部～底部回転ナナデ。	

第17表 ビット遺物観察表(2)

No.	器種	法量 (m/g)	残存	成整形の特徴等			備考	
P.106 1	古銭	長径:2.34 厚さ:10.6 重さ:1.64	ほぼ完全	元徴通宝カ。刷製。鑄造。			北本銭。 初降1078年。	
No.	器種	法量 (m)	残存	色調	胎土	構成	成整形の特徴	備考
P.111 1	須恵系 高台付埴	口径:— 底径:(8.8) 器高:(2.6)	体部下位~ 高台部1/4	外面:灰白 内面:灰白	白色粒	還元焼	外面:体部~底部回転ナデ。底部回転糸切り。 内面:体部~底部回転ナデ。	
P.164 1	陶器 碗	口径:(12.0) 底径:— 器高:(1.9)	口縁部~体 部上位破片	外面:暗褐色 内面:暗褐色	白色粒・黒 色粒	還元焼	外面:口縁部~体部回転ナデ→鉄粒を施焼。 内面:口縁部~体部回転ナデ→鉄粒を施焼。	天日院。 瀬戸・美濃。

7. 畠

SN-1 (第36図)

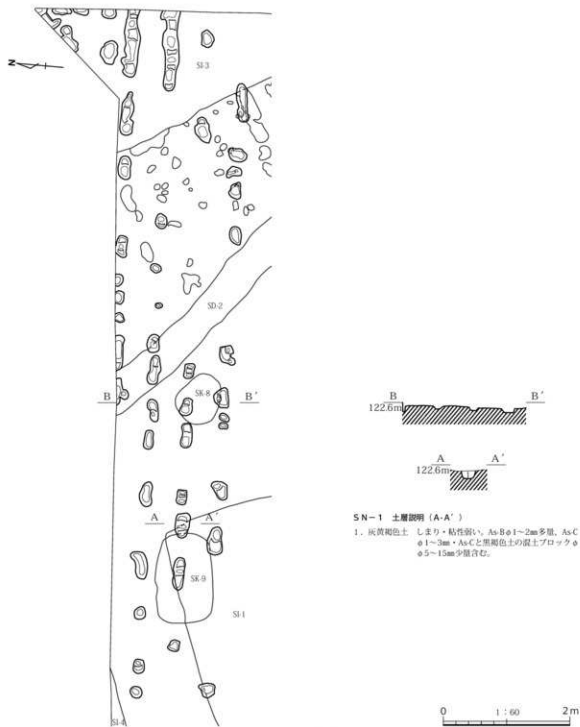
位置: X=42127~42131, Y=-74806~-74817。軸方位: N-88° -E。重複: S1-1・3、SK-8・9、SD-2、SN-2と重複し、先後関係は本遺構が新しいと考えられる。規模: 東西方向に並走するビット状の浅い窪地が確認され、耕作痕と捉えた。4条以上の畝間溝である。間隔は芯心距離でおよそ0.56m程度である。埋没土はAs-Bを多量、As-C・As-Cと黒褐色土の混土ブロックを含む灰黄褐色土である。出土遺物: 埋没土中から、土師器(壺)・磁器(染付碗)が出土した。時期: 埋没土の観察から、中世以降と想定される。備考: 調査区東側から検出されているSK-1・4~6と本遺構の埋没土は近似しており、同時に機能していた可能性が考えられる。



第35図 SN-2遺構図

SN-2 (第35図, P.L. 10)

位置: X=42125~42129, Y=-74806~-74811。軸方位: (東西) N-67°-E。(南北) N-32°-W。重複: S I-2・3, SK-1, SD-2, P-156, SN-2と重複し、先後関係は本遺構が古いと考えられる。規模: 東西乃至は南北方向に並走する土坑状もしくはピット状の窪地が確認され、耕作痕と捉えた。規模や間隔の差から複数の耕作痕が混在していることが考えられるが、埋没土が類似しているため、一括りとして扱った。2条以上一對のようにも見受けられる畝間溝である。間隔は芯心距離でおよそ0.50m程度である。埋没土は古墳時代前期の竪穴住居跡(S I-1~4)と類似しており、純度の高いAs-Cがブロック状に混入する。出土遺物: 埋没土中から、土師器(甕)が出土した。時期: 埋没土の観察から、古墳時代前期あるいはそれ以降と想定される。

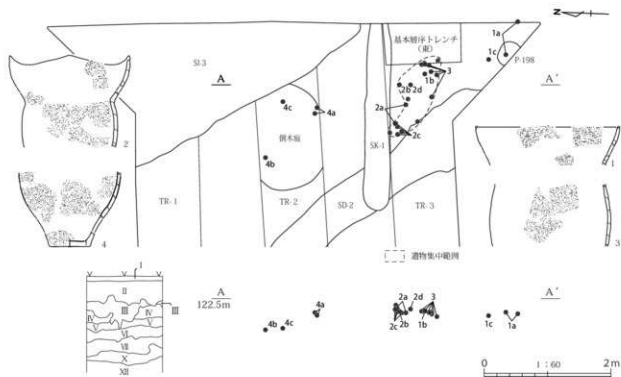


第36図 SN-1遺構図

8. 遺物包含層 (第37・38図・第18表/P.L. 10・14)

調査区東端に残存するIV層(暗褐色土層)中において縄文土器40点・石器2点が出土し、縄文時代の遺物包含層と想定された。遺構確認面下となっていたIV層に遺物の包含が見込まれたことから調査区に沿った1～3号トレンチを設け、その結果として2・3号トレンチ東端からまとまって検出された。とくに、3号トレンチの基本層序東トレンチ脇では1.45×0.62mの範囲に集中する。2号トレンチでは検出深度の低いものが見受けられ、重複する倒木痕によって攪拌を受けたものと考えられる。

縄文土器は4個体分の破片を主体とし、縄文時代前期中葉黒浜式に比定される。石器はいずれも欠損しており、石鏃(黒曜石)と剥片(頁岩)が見とめられた。



第37図 遺物包含層範囲図

第18表 遺物包含層遺物観察表

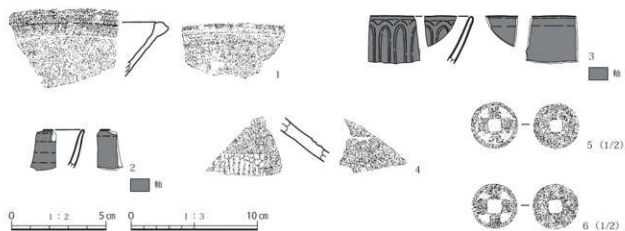
No.	器種	法量 (m)	残存	色調	胎土	焼成	成形の特徴	備考
1	縄文土器 深鉢	口径:(34.4) 底径:— 器高:(9.3)	口縁部破片	外面:明赤褐色 内面:にぶい赤褐色	繊維・石英・長石・白色粒・赤色粒	焼化培	口内面に小突起 外面:口縁部に半載竹管状工具によるコンパス紋・平行沈線紋。 内面:口縁部横位ミガキ。	前期中葉黒浜式。
2	縄文土器 深鉢	口径:— 底径:— 器高:(21.7)	口縁部・胴部破片	外面:にぶい黄褐色 内面:にぶい褐色	繊維・石英・長石・角閃石・輝石・白色粒	焼化培	皮状口縁。 外面:口縁部・胴部に羽状単節縄紋(RL・LR)→半載竹管状工具による爪型紋で横位区画→爪型紋間の縄紋を磨消。 内面:口縁部横位ミガキ、胴部斜位ミガキ。	前期中葉黒浜式。
3	縄文土器 深鉢	口径:— 底径:— 器高:(14.7)	胴部破片	外面:明赤褐色 内面:にぶい赤褐色	繊維・石英・長石・白色粒・赤色粒	焼化培	外面:胴部に羽状附加条縄紋1種(RL・L・LR・R)。 内面:胴部縦位ミガキ。	前期中葉。
4	縄文土器 深鉢	口径:— 底径:(9.3) 器高:(17.6)	胴部・底部破片	外面:明赤褐色 内面:褐色	繊維・石英・長石・角閃石・白色粒・赤色粒	焼化培	外面:胴部に羽状附加条縄紋1種(RL・L・LR・R)。 内面:胴部縦位・斜位ナシ。	前期中葉。
							重さ/石材/成形の特徴等	
5	石器 石鏃	長さ:(2.3) 幅:(1.7) 厚さ:0.4		重さ:1.57g、黒曜石。凹縁無茎。先端部と両端部が大きく欠損。				TR-3。



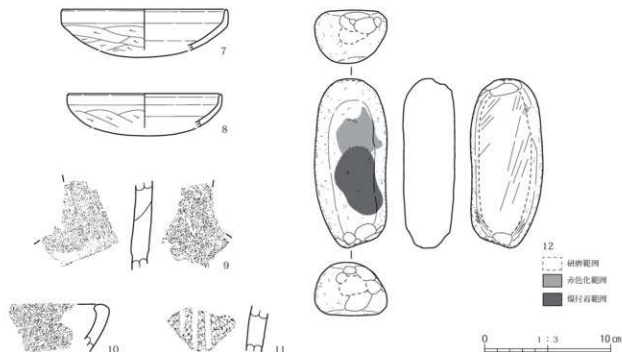
第38図 遺物包含層遺物実測図

9. 遺構外出土遺物 (第39図、第19表/P.L. 14)

ここでは、試掘トレンチ埋土や遺構外、遺構埋没土中からの出土ではあるものの、明らかに遺構に帰属しないものに関して遺構外出土遺物として取り扱った。縄文土器及び石器は既知調査地においても少量出土しているが、本調査地からも当該期における遺構の確認には至っていない。試掘トレンチ埋土から出土した青磁碗(2・3)や古銭(5・6)はトレンチ内から検出されている土坑やピットの埋没土に混入していた可能性が考えられる。掲載資料は12点。



第39図 遺構外出土遺物実測図(1)



第40図 遺構外出土遺物実測図(2)

第19表 遺構外出土遺物観察表

No.	器種	法量 (cm)	現存	色調	胎土	構成	成整形の特徴	備考/出土地点
1	陶器鉢	口径: — 底径: — 器高: —	口縁部~体部 上部破片	外面: 暗灰 内面: 暗灰	白色粒	還元焼	外面: 口縁部~体部回転ナデ。 内面: 口縁部~体部回転ナデ。	調査区。
2	磁器碗	口径: — 底径: — 器高: —	口縁部~体部 上部破片	外面: 緑灰 内面: 緑灰	白色粒	還元焼	外面: 口縁部~体部回転ナデ~胎粒。 内面: 口縁部~体部回転ナデ~胎粒。	青磁碗。 龍泉窯系。 TR-1 目録。
3	磁器碗	口径: — 底径: — 器高: —	口縁部~体部 上部破片	外面: 緑灰 内面: 緑灰	白色粒	還元焼	外面: 口縁部~体部回転ナデ~胎粒。 内面: 口縁部~体部回転ナデ~胎粒。	青磁碗。 試掘 TR。
4	陶器蓋	口径: — 底径: — 器高: —	側部破片	外面: にぶい黄 緑 内面: 黒	白色粒・黒 色粒	還元焼	外面: 側部へうなデ~押印文。 内面: 側部ナデ。	常滑系。 調査区。
No.	器種	法量 (m/g)	現存	成整形の特徴等/備考				出土地点
5	古銭	直径: 2.46 厚さ: 0.12 重さ: 2.06	完形	熙寧元通宝。銅製。鑄造。北宋銭。初鑄1068年。				試掘 TR。
6	古銭	直径: 2.42 厚さ: 0.12 重さ: 2.48	完形	皇宋通宝。銅製。鑄造。北宋銭。初鑄1039年。				試掘 TR。
No.	器種	法量 (cm)	現存	色調	胎土	構成	成整形の特徴	出土地点
7	土師器 杯	口径: (13.0) 底径: — 器高: (3.2)	口縁部~ 体部 1/4	外面: 橙 内面: 橙	白色粒・吉 母・輝石	酸化焼	外面: 口縁部ヨコナデ。体部ナデ~ズリ。 内面: 口縁部~体部ヨコナデ。	調査区。
8	土師器 杯	口径: (12.0) 底径: — 器高: (2.7)	口縁部~ 体部 1/5	外面: 橙 内面: 橙	白色粒・石 英・雲母	酸化焼	外面: 口縁部ヨコナデ。体部ナデ~ズリ。 内面: 口縁部~体部ヨコナデ。	調査区。
9	埴輪	口径: — 底径: — 器高: —	破片	外面: 橙 内面: にぶい橙	褐色粒・白 色粒	酸化焼	外面: ハケ~破片下端ヨコナデ。 内面: ヌビナデ。	調査区。
10	縄文土器 深鉢	口径: — 底径: — 器高: —	口縁部破片	外面: にぶい橙 内面: にぶい橙	片岩・長石・ 角閃石・輝 石・白色粒	酸化焼	外面: 口縁部横位ミガキ。 内面: 口縁部横位ミガキ。	中洲浅草曾利 式。 SD-2 出土。
11	縄文土器 深鉢	口径: — 底径: — 器高: —	側部破片	外面: にぶい橙 内面: にぶい橙	石英・長石・ 角閃石・輝 石・白色粒	酸化焼	外面: 側部に卑部網紋 (RL) →へう状工具による3条 の単沈線紋で縦位区画。 内面: 横位ナデ。	中洲浅草曾利 式 E 1 式。 SD-1 出土。
No.	器種	法量 (cm)	現存	成整形の特徴等/備考				出土地点
12	石器 磨石/砥石	長さ: 13.4 幅: 5.7 厚さ: 4.1	完形	重さ: 573.18 g。石材: 閃緑岩。自然石 (山原石) 各利用。両端部に縦打と打ち欠き痕。裏・側 面の一部に押痕。表面の一部に被熱による赤色化と保付石。				調査区。

VI まとめ

今回の調査で検出された主な遺構は、古墳時代前期及び古墳時代後期（7世紀後半）の住居、古墳時代以降・中世以降の竪穴状遺構・土坑・溝・ピットである。本調査地の地形は西半部が微高地、東半部が谷地形となっており、微高地には居住に係る住居や竪穴状遺構のほか、土坑・溝・ピット、谷地形上には生産に係る古墳時代以降と中世以降の溝・畝が占地する傾向がみられた。過去2度行われた調査（1・3地点）では主に古墳時代前期の住居・畝、古墳時代後期の住居、古代の用水路が検出されているが、今回の成果により、古墳時代前期における集落域の広がりや古墳時代後期にも集落が形成され展開する様子が窺われる。更には予察されていなかった中世以降の溝と柱穴と考えられる多数のピットが検出されており、以下では中世以降における本調査地の土地利用について若干の補説を行い、結語としたい。

溝について

溝は4条が検出された。調査区の両端部に占地しており、東と西ではいくつかの差異が認められた。調査区東側の谷地形上に位置するSD-2は畝の軸と近い北西-南東を指向し、集落域と生産域を画する古墳時代以降の用水路あるいは区画溝として機能していたものと考えられる。対して、調査区西側の微高地上に位置するSD-1・3・4は現道や川と並走するように概ね南北を指向して走行する。SD-3・4は形状や規模等から中世以降に帰属する区画に伴う溝と想定される。更には両溝と並走するような形状をとるSD-1およびSD-1とSD-3・4の間に位置するSK-11~13・16も類似性が見出されることから、同様の機能を有していた可能性が想定される。SD-1（a・b）は土層断面の観察から少なくとも2期以上に渡ることが想定され、SD-1aは中世以降に掘り直しをされていることが判断される。開削時期については出土遺物や埋没土の観察から詳らかにすることはできなかったが、古墳時代の住居とは軸方位が異なるため、東方に近接するピット群との関連が窺われる。そしてSD-1bとした範囲については規模がやや大きく掘削形態が他の溝や土坑とは異なる葉研堀状となっているため、防衛機能も含むような堀あるいはそれに近い機能を有する区画溝であった可能性が考えられる。

ピット群について

ピット群の分布は調査区西端のSD-1・3・4から谷地形との境付近までの微高地上に集中しており、高い密度をみせる。帰属時期としては埋没土中にAs-Bの混入がみられることや中世の所産と考えられる青磁等が出土していることから、中世以降が主体にならう。土層や底面の観察から柱痕の痕跡が確認できるピットも多数検出されている。これらを踏まえていくつかの掘立建物や柱列の想定を試みたのが第42図である。範囲の制限等もあるため全容は不明確だが、複数の建物や柱列が想定できることは言えよう。建物としては中世における建物構成の主流である梁間1間型の掘立建物や主になるものと考えられる。その他、付属屋なしは作業小屋のような小型の建物も勘案されようか。傾向としては東西軸に桁行を持つ建物群が主になると考えられるが、谷地形との境付近に位置するピット群からは桁行が北西-南東に振れる柵列や建物も想定されるため、建物の構成と配置に変遷を伴うことが看取される。

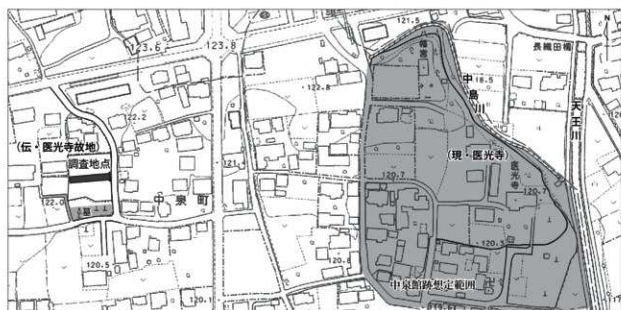
中世の中泉地区について

以上、狭小な調査範囲であったが本遺跡からは中世以降の溝と建物跡を想定させる多数のピットが検出されたことにより、概期における人々の活動の痕跡を捉えることができた。中泉十王堂遺跡が所在する中泉地区について『群馬町誌』によると、中世末期以前の中泉村落は旧三国街道沿いの東側にあり、十王堂・箕輪かいと（中泉村検地帳・明治初年地籍図）に居住していた村人が戦国の混乱期に村落防衛上の都合から、現在の医光寺が所在するあたりに移転したと推量されている（第41図）。医光寺は宝徳2年（1450）に本寺安楽宗の開基僧、伝灯大阿闍梨法印惠藏大僧都の弟子、惠信阿闍梨法印の開基という。医光寺が現在の地に移動する以前は字十王堂に所在し、その周辺には各家の先祖の墓石と中世期の五輪塔・宝篋印塔の破片も散在していると記されている。十王堂・箕輪かいとは字名等から本遺跡地を含むことが想定され、さらには本遺跡地の南西～南方には墓石が現

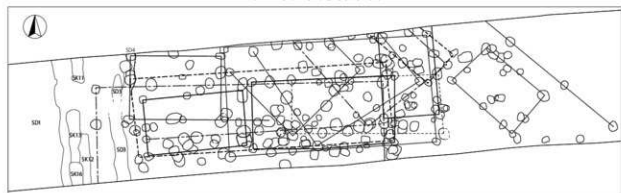
存していたことから、本道跡地を含む周辺が中泉村落域内にあたり、なお且つ伝・医光寺故地に含まれる蓋然性が高い。

現・医光寺(第41図)から八幡宮のあたりには中泉館跡(第3図・e)の本丸があったとされ、寛文7年(1667)『中泉村検地帳』には23軒の屋敷群があったと記載されている。これを踏まえてやや穿った見方をすれば、伝・医光寺故地の想定地内に所在する本道跡地と現・医光寺はほぼ同じ東西軸上にあり、規模は異なるものの防衛線と考えられる北東～東の形状(本調査地:現道、現・医光寺:流路)や南方のクランク状の区画(現道)が類似しているように見られる。現・医光寺の所在する縄張りが中泉館跡の痕跡を示すのであれば、伝・医光寺故地周辺にはその前段階となる屋敷割りがあったことが推測される。

今回の調査成果からは医光寺を特定することができないため、溝と建物跡が想定されるピット群については移動する前の屋敷群にあたる可能性も考えられる。調査範囲の制限等もあり、ピット群から詳細な建物や柱穴を詳らかにすることはできなかったが、『群馬町誌』に記載されているような中世期の中泉地区を検証する成果が得られたと考えられる。



第41図 医光寺位置図



第42図 ピット群建物・柱穴想定図

【引用・参考文献】

- 日沖唯史 2016『中泉十王堂遺跡遺跡』 高崎市教育委員会
- 中村岳彦 2018『中泉十王堂遺跡遺跡3』 高崎市教育委員会
- 板井美枝 1998『浜川遺跡群』 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 石守 晃 2002『中内村前遺跡』 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 群馬町史編纂委員会 2001『群馬町史 通史編 上』 原始古代 中世・近世
- 群馬町史編纂委員会 2001『群馬町史 資料編』 原始古代 中世

写 真 图 版



浅間山

権名山

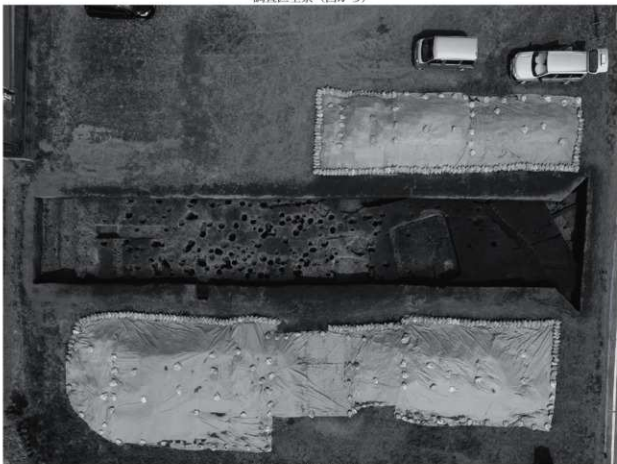
道跡遠景（南東から）



道跡全景（上が北）



調査区全景（西から）



調査区全景（上が北）



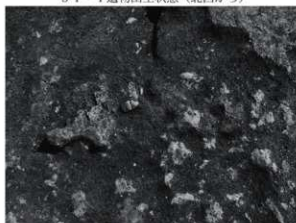
S 1-1 全景 (南東から)



S 1-1 遺物出土状態 (北西から)



S 1-1 遺物出土状態近景 (西から)



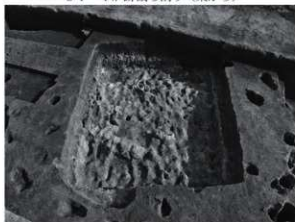
S 1-1 が跡 (西から)



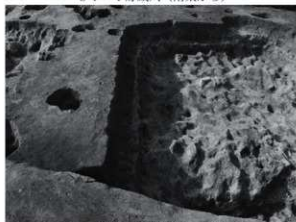
S 1-1 が跡裁ち割り (東から)



S 1-1 貯蔵穴 (南東から)



S 1-1 掘方 (北西から)



S 1-1 掘方西半側近景 (南東から)



S I-2 全景 (南東から)



S I-3 全景 (南西から)



S I-3 遺物・焼土・炭化物検出状態 (南西から)



S I-3 遺物出土状態 (南西から)



S I-3 遺物出土状態近景 (南西から)



S I-3 跡土層断面 (西から)



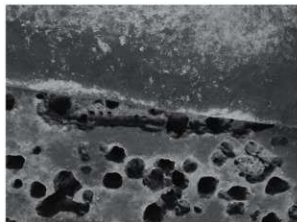
S I-3 掘方 (南西から)



S I-4 全景 (南東から)



S I - 4 遺物出土状態 (西から)



S I - 5 全景 (南東から)



S I - 6 全景 (南東から)



S T - 1 全景 (北から)



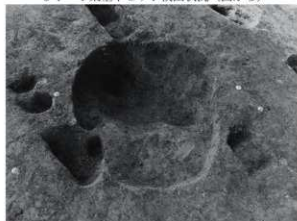
S T - 1 土層断面 (北から)



S T - 1 東壁下ビット検出状況 (西から)



S K - 3 全景 (北西から)



S K - 8 全景 (南東から)



SK-9 全景 (北から)



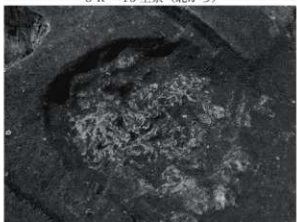
SK-14 全景 (北から)



SK-16 全景 (北から)



SK-17 全景 (東から)



SK-18 全景 (北東から)



SK-21 全景 (西から)



SK-22 全景 (北から)



SD-1 全景 (南東から)



SD-1 全景 (北から)



SD-2 全景 (北西から)



SD-1 調査区南壁土層断面 (北から)



SD-2 調査区北壁土層断面 (南東から)



SD-3 調査区南壁土層断面 (北から)



SD-4 調査区北壁土層断面 (南から)



SD-3・4 全景 (北から)



SA-1、ピット群（上が北）



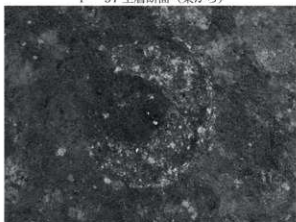
P-3 石白出土状態（西から）



P-97 土層断面（東から）



P-162 柱痕検出状況（東から）



P-163 柱痕検出状況（南から）



SN-2 全景 (北東から)



SN-2 確認状況 (北西から)



TR-1~3 全景 (南西から)



TR-3 内遺物包含層遺物出土状態 (南から)



基本層序 (西) 土層断面 (南から)



基本層序 (東) 土層断面 (西から)



SI-1 作業風景 (北東から)



SI-1 作業風景 (南東から)

S1-1



1



2



3



4



6



5



7



8



10



9



11(1/2)

S1-2



1



2

出土遺物(1)

PL .12

S I-3



S I-4

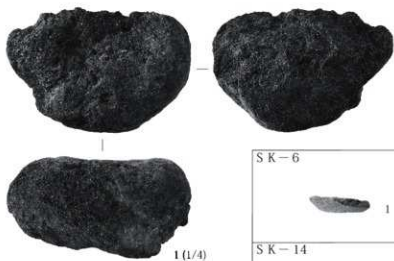


S I-6



出土遺物 (2)

ST-1



SK-3



SK-6



SK-18



SK-14



SD-1



SD-2



P-3



P-48



P-56



P-77



P-106



P-111



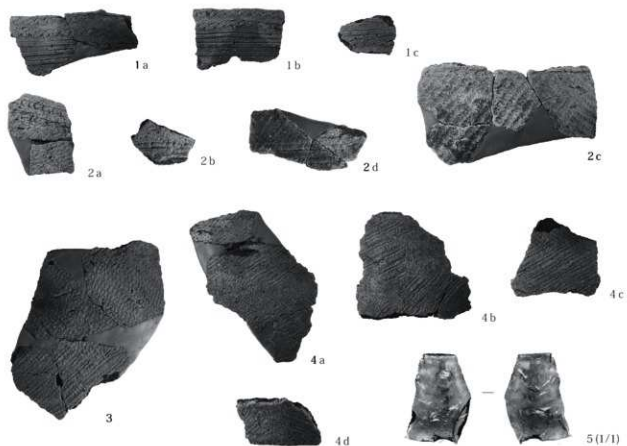
P-164



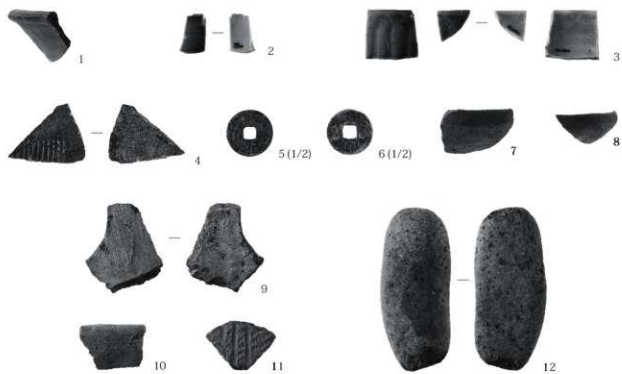
出土遺物 (3)

PL .14

遺物包含層



遺構外出土遺物



報告書抄録

フリガナ	ナカイズミジュウオウドウイセキ
書名	中泉十王堂遺跡5
副書名	建売分譲住宅工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第499集
編著者名	土井道昭 山本千春
編集機関	有限会社毛野考古学研究所
所在地	〒379-2146 群馬県前橋市公田町1002-1 Ⅱa 027-265-1804
発行機関	高崎市教育委員会
所在地	〒370-3692 群馬県北群馬郡吉岡町下野田560 Ⅱa 0279-54-1054
発行年月日	令和5年11月30日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ナカイズミジュウオウドウイセキ 中泉十王堂遺跡5	ゴマケンシカサキ 群馬県高崎 シカサキシ 市中泉町字 ジュウオウドウ 十王堂90-1	102020	866	36°22'36"	138°59'58"	20230301 ～ 20230418	157.91	建売分譲 住宅工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
中泉十王堂遺跡5	集落跡	古墳時代前期 古代 中世以降	竪穴建物跡 欄列 竪穴状遺構 土坑 溝 ピット 竈	6軒 1条 1基 22基 4条 204基 1面	土師器 須恵器 陶磁器 銭貨 石製品 縄文土器 石器 円筒埴輪	古墳時代前期・後期の集落、中世以降のピット群を確認。古墳時代前期の竪穴建物跡はA s - C 混土により埋没している。

中泉十王堂遺跡 5

— 建売分譲住宅工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

令和 5 年 11 月 23 日印刷

令和 5 年 11 月 30 日発行

発 行 高 崎 市 教 育 委 員 会

編 集 有 限 会 社 毛 野 考 古 学 研 究 所

印 刷 所 朝 日 印 刷 工 業 株 式 会 社
